

物性研だより

第34卷
第1号

1994年5月

目 次

所長に再任されて	竹内 伸	1
第8回物性専門委員会（第15期）議事録		4
物性研究所談話会		9
物性研ニュース		
○ 東京大学物性研究所 助手公募		11
○ 人事異動		15
○ 平成6年度 物性研究所協議会委員名簿		18
○ 平成6年度 共同利用施設専門委員会委員名簿		19
○ 平成6年度 軌道放射物性研究施設運営委員会委員名簿		20
○ 平成6年度 外来研究員等委員会委員名簿		21
○ 平成6年度 人事選考協議会委員名簿		21
○ 平成6年度 中性子散乱研究施設運営委員会委員名簿		22
○ 平成6年度 中性子散乱実験審査委員会委員名簿		23
○ 平成6年度 前期短期研究会一覧		23
○ 平成6年度 前期外来研究員一覧		24
○ 平成6年度 中性子回折装置共同利用採択課題一覧		56
○ 平成6年度 後期共同利用の公募について		64
○ 物性研究所物性科学入門講座		84
○ 東京大学物性研究所における大学院修士及び博士課程進学ガイダンスの お知らせ		85
○ テクニカル・レポート 新刊リスト		86
第39回物性若手夏の学校		89
編集後記		

東京大学物性研究所

正 誤 表

P. 18 平成6年度物性研究所協議会委員名簿

正 山崎敏光

誤 山崎俊光

P. 20 平成6年度軌道放射物性研究施設運営委員会委員名簿

正 木原元央 6.4.1 ~7.12.31

小杉信博 "

誤 岩崎博 6.1.1 ~7.12.31

薬師久彌 "

P. 22 平成6年度中性子散乱研究施設運営委員会委員名簿

正 お茶の水女子大(理) 教授 太田 隆夫 6.4.1 ~7.3.31

誤 九州大学(理) 教授 川崎恭治 5.4.1 ~7.3.31

P. 23 平成6年度中性子散乱実験審査委員会委員名簿

正 委員長 早大・理工総研

委員 筑波大・物質工学系

誤 委員長 早大・理工総研

" 筑波大・物質工学系

所長に再任されて

竹内伸

平成5年度で3年間の所長の任期を終え、6年度より研究に専念できるのを楽しみにしていたが、この2月の所員会で再選されたため引き続き2年間所長の重責を担うことになった。

ふり返るとこの3年間は瞬く間に過ぎ去った感がある。その間には中性子散乱研究施設が実現し、また本年度にはスーパーコンピューターの導入が決まり計算機物理学の発展に貢献できる見通しがついた。これらはいずれも関係研究者の並々ならぬ御尽力と、東京大学および文部省関係者の御理解の賜物であり、心から感謝の意を表したい。しかし、何と言ってもこの3年間の最大の課題は、将来計画の策定とそれを実現するキャンパスの検討であった。いわゆる第3世代の物性研の将来計画については、守谷前所長の時代から検討が始められ、平成2年5月には冊子の形ですでに将来計画の概要が公表されている。それを引き継いで、所内外の多数の研究者の協力の下に何度も計画の見直しが行われ、昨年末にはほぼ最終的な計画案がまとめられた。その計画の骨子は昨年12月に開催された学術会議物理学研究連絡会の全体会議に諮られて承認を得るに至り、ひとつの段落を迎えることができた。この間の関係者の御努力、特に安岡将来計画委員会委員長の御尽力には敬意を表する次第である。

キャンパスについては、東京大学における、柏新キャンパスの取得を想定したいわゆるキャンパス3極構造（中央に本郷地区キャンパス、西に駒場地区キャンパス、東に柏地区キャンパスの3極）の構想の一環として、物性研の将来計画を柏新キャンパスで実現するのが最善であるとの結論を得た。かくして、将来計画の実現については一応の道筋が定められた段階に至った。今後は、計画をいかに理想に近い形で実現するかという新しい局面を迎えるわけである。

第3世代の物性研の計画については、「物性研だより」33巻4号にその概要を掲載したのでここでは詳細は述べないが、その根本的な考え方を、物性研究の歴史的変遷に照らして記述してみたい。物性研究のオーソドックスな研究の流れを表すフローチャートは〔物質〕－〔環境〕－〔測定〕－〔物性〕－〔理論〕である。初期の研究においては「物質」と「物性」が1対1に対応していて、特定の物性を示す典型物質がそれぞれの分野での研究対象となっていた。磁性、半導体、誘電体などの分野がそれぞれ固有の物質群を研究対象とすることにより、物質世界がかなり明瞭にborderされていた感があった。第1世代の物性研は、このような物質群による区分を中心として、いくつかの測定手法、理論などから成る小部門で構成されていた。

昭和50年代からの第2世代においては、それまでのconventionalな〔環境〕－〔測定〕から最先端の極限的な〔環境〕－〔測定〕に移行する重点研究体制が敷かれて今日に至っている。その中には我が国初の放射光施設も含まれる。同時に、第2世代に入って〔物質〕と〔物性〕の1対1の対応関係が大きく変貌した。典型的な例は超伝導研究の対象物質に見られ、金属から酸化物や分子結

晶に移行した。また、半導体結晶がある場合には低次元電子系の舞台を提供する物質として用いられ、半導体としての研究対象とは全く異なる役割を果たす。かつての物質世界のborderが殆ど消滅し、いわばborderlessの時代に変わったといえる。さらに、電子計算機の性能の急速な進歩に伴って、〔理論〕の役割も従来の位置づけとは異なる別の領域に進出することになった。それは、〔環境〕 - 〔測定〕の領域に、実験と併行して〔計算物理学〕というジャンルを形成したのである。もちろん、とどまる所を知らない技術の進歩に伴って、STMのような新しい研究手法が開発され、レーザーや放射光のような測定プローブも発展を続けている。第3世代の物性研では、このような物性研究の変貌に対応すべく、全面的に新しい研究組織に改編し、国内外に開かれた新しい体制の下に、物性研究分野でのCOEとしての役割を果たすことを期待している。

研究の領域は、大きく分類すると、新物質、先端手法、先端概念、理論の4つの柱で構成される。物性研究の新しい展開が新規な物質の発見に端を発するという歴史的な事実をみるまでもなく、新物質、新物性を探索しその基礎的諸物性を測定する柱は物性の総合研究所にとって不可欠である。この柱として「新物質科学研究部門」が設けられる。第2の柱は、現在の極限物性部門を更に発展させる領域であり、特に〔環境〕、〔測定〕を多角的に組み合わせることに重点が置かれる。「多重極限物性研究部門」「先端分光研究部門」「ビームプローブ物性研究部門」がこの柱に属する。この第2の柱の範疇には、すでに平成5年度に発足した「中性子散乱研究施設」と、早期に実現しなければならない高輝度放射光施設計画が含まれる。ただし、これらの大型設備は共同利用が主体となるので、今後も研究部門とは独立に、組織上は省令施設として運営されることになる。

研究対象がborderlessの時代に重要なのは、新しい物性概念である。「量子物性研究部門」「表面物性研究部門」「パイロット領域研究部門」がこの第3の柱に属する研究部門である。第4の柱は計算物理学を含む理論グループである。本年度導入されるスーパーコンピューターは、全国の計算物理学研究の中心として共同利用に供されるので、将来計画の中では「計算物理研究施設」として「物性理論研究部門」とは独立の組織として運営される。なお、平成4年6月にまとめた「物性研将来計画（中間報告）」では、独特的の「センター群構想」の下に10センター組織を考えていた。現在の改組案でも、中間報告に記したセンター群構想の精神は引き継がれているが、現在の法制上はセンターのみで研究所を構成することができないので、より現実的な「部門」 + 「施設」の組織名称に改めたのである。

以上の4つの柱の内、第一の柱と第4の柱は、物性研究が存続する限りそのまま永久に存在すべき柱である。いっぽう、第2、第3の柱、すなわち先端研究手法や先端物性概念は時代と共に変遷する宿命を負っている。したがって、この2つの柱の中身についてはある年限を経た後には見直しを行い、常にupdateしていく必要がある。それなしには物性科学の発展に柔軟に対処して、先導的研究所としての役割を続けることはできない。

以上の研究部門、施設のほかに、全国の研究者の強い要望もあり、また物性研自身としても從

来充実をはかる努力を怠ってきた物質評価のための諸設備群を備えた「物質総合評価施設」を設置する計画である。それに「物性情報センター」および、「客員部門」、「流動部門」を加えた10研究部門、4研究施設、1センターが改組後の物性研究所を構成する。研究体制・組織の問題のほかにも、移転後の大学院教育の問題を含む若手研究者養成をどのような形で進めるか、研究支援体制をどのように整備するかなどの問題が残されている。その中で、物性研のような先導的・先端的研究を行う研究所には、特にポストドクタル制度のような、若手研究者のための流動的なポストが必要であり、そのような制度の確立に努力したいと考えている。

今回の移転はこのような将来計画を実現する千載一遇の機会であり、またその実現なくしては移転の意味は全くない。今回の移転計画がどのような形で実現するかは、物性研の将来のみでなく、21世紀の我が国の物性研究の命運がかかっていると言っても過言ではない。責任は極めて重い。大学当局、文部省関係者の御理解、御支援を切に願う次第である。

なお、この3年間に、外部の研究者からさまざまな機会に物性研の現状や体质の問題点についてさまざまな御意見や御批判を頂いた。中でも人事交流の問題は重要である。物性研においては助手の採用および助教授の採用に関しては、かなり厳しくinbreedingを排して來たので、この点に関しては高い評価を受けていると考える。問題は助教授の人事交流である。物性研から助教授で転出した事例は過去20年間に6件しかなく、近年には助教授から教授への昇格が殆ど恒常的に行われて來た事実に対しては厳しい批判が寄せられている。第2世代に入り、極限物性のようなプロジェクト的重點研究体制に移行したことが、助教授の転出を困難にしている大きな要因となっているのは事実である。私は、助教授の転出が行われない結果として止むを得ず内部昇格を行わざるを得ない状況を生んでいるのであって、内部昇格が助教授の転出を阻害しているという要素は少ないと考えている。しかし、いずれにしても20年間で転出した助教授が6名という数字は共同利用研究所としてかなり問題である。私は、第3世代の物性研の計画の中では、少なくとも第2、第3の柱ではプロジェクトの時限を明確にして、時限終了後には原則としてそれに関係した所員は転出するという慣行を是非確立すべきであると考える。その際、実験装置と共に転出できるシステムの確立が望まれ、それが実験研究者の転出を容易にする重要な方策であろう。人事の流動なくしては物性科学の流動的な発展に対処できないことは明白である。

今後も、引き続き全国の物性研究者の御支援、御協力をお願いすると共に、忌憚のない御批判をお寄せ頂くようお願いする。

第8回物性専門委員会（第15期）議事録

日 時： 1994年1月20日(木) 13:00-17:00

出席者：	伊達宗行	安藤恒也	石井武比古	遠藤裕久
	遠藤康夫	勝木渥	川村清	国府田隆夫
	小林俊一	小松原武美	竹内伸	張紀久夫
	長岡洋介	中嶋貞雄	藤田敏三	安岡弘志

[前回議事録の承認] 前回（第7回）議事録を承認した。

[報告]

1. 学術会議報告（中嶋）

○物理学将来計画の報告書は題名を「日本の物理学の明日への展望」と変更することにし、現在執筆作業が進行中である。本体は160ページ程度になる予定である。7月にまとめる予定だったが、予算上の都合で早める必要が出た。第4部会、運営審議会の承認を経て、4月上旬に学術会議報告として出す予定であり、市販の途も考えている。時間的制約があり不備なものとなるが、今後5年に一回くらいずつ続編を出したらどうかと考えている。他に運営審議会用のアブストラクトを作るが、これは中嶋が執筆する。

物性専門委員会提案のネットワーク構想、原子核専門委員会提案のアジア地域のセンター構想、さらに、大型ハドロン計画からLinear colliderまでを組織的に論じたい。

○数理科学国際研究所については、名前をせまくとられそうであるが、名称はこのままにしておくことになった。数学を共通にした人文系も含む研究所であることを強調したい。連合部会で4部案を披露することになった。最終的には学術会議総会から勧告として出さるものと思われる。

○国際貢献特別委員会は、新システム構想について、外部と個別に懇談中である。一般論より具体的議論から説きおこした方がアピーリングだと思う。

○伊達会員が執筆した「官僚機構と研究」のレポートは第4常置委員会へ行った。

以上の報告にもとづいて以下の質疑・討論があった。

○物理学将来計画の報告を今後も5年ごとにくりかえすという提案は大変良い。

○学術会議会員が大きく変わるとときにレポートがまとまるのは良い。

2. 物性研究所報告（竹内）

○人事 新所員3名の人事がまもなく決定する。所内昇格もまもなく決定される。

○予算については内示がおくれているため、報告すべきことがない。

○移転関係については、柏キャンパスのアカデミックプランの検討が進行中で4研究科構想はほぼ決定された。平成7年度に土地を取得する予定である。柏には学際的研究科を作ることになっているが、キャンパスの理念などの文書の作成はこれからである。

3. 基礎物理学研究所報告（長岡）

前回の会議以降とくに新しいことはない。

4. 高エネルギー研究所報告

（石井）すべて順調にいっている。

（遠藤）新研究機構を考えるワークショップが12月中頃に開かれ、その結果を1月中頃原子核研究所・KEK連絡会に報告する。ブースター利用施設はハドロン研究所に入る。

大型ハドロン計画とのつなぎを考慮中である。

（伊達）評価委員会が設置され、評価が始まった。フォトンファクトリーを含む活動の評価が進行中である。

5. 物性グループ（長岡）

○物性研究所共同利用施設専門委員の選挙を行った。結果は次の通りである。

保志 賢介	佐藤 正俊	高畠 敏郎	藤田 敏三
都 福仁	黒田 義浩	溝口 正	高山 一

これについては、翌日の本会議にはかり学術会議から推薦することになった。

○基研研究部員の選挙結果の報告

城 健男	斯波 弘行	広岡 繁	張 紀久夫
黒田 義浩			

○物性グループメンバーの再登録と百人委員の選挙をおこなった。1月4日現在、これまでの279グループ中216グループが再登録を完了した。また31グループが新規登録を行った。近々に締切り、物性委員会委員選挙を4月上旬までに行う予定である。百人委員 300人近くは事務局報で公表する。新委員長決定後、幹事を決定する。幹事の一人を事務局長にする。

6. 科学技術会議第20号諮問に関する（伊達）

○若年人口が激減すると同時に、理科離れ、物理離れがおきている。それに対処するために、科学技術会議人材部会が第20号答申に向けて検討を開始した。初等中等教育を含め、理科教育における多くの問題点を述べておきたいと思い、人材部会に要望と提案をしてきた。教員養成大学の理科教員の養成法を変える必要も強調しておきたい。物理離れ、理科離れの対策を学会内外で広く考えて行く必要がある。

なお、これらに関して現在、東大理学部が世話を「理学部とはなにか」ということを知ってもらうための高校生向けのパンフレットを作成中であるという報告があった。

[議 事]

1. 物性研究拠点整備計画

長岡物性将来計画ワーキンググループ委員長より拠点整備計画案について以下のような説明があった。

計画案については、小松原、深井、家、安岡の4氏を執筆委員に委嘱したが、この部分は未完成である。計画案概要は次のとおりである。

I. 序 論

II. 推進の方向：全国1ヶ所の大型設備を置き、さらに数ヶ所に中型設備を置く。他に多数の小型設備もあると思うが、ここでは中型設備に限ってとり上げる。

III. 中型設備装置とは次のようなもの等をいい、それに対してはネットワークを構築する。極限物性、多重極限（低温・高磁場・超高压），光物性・レーザ分光、X線磁気散乱、特殊物質形成装置大洗のウラン施設、物性研の物質評価

IV. 物性研の役割：先導的研究所としての役割を付加する。

V. 具体的施策：各中型設備のランニングコストの支援を共同利用予算として要求する。ネットワークとして研究者の組織を構築し、共同利用が出来る体制を作る。具体的には、「物性研究連絡会」を物性専門委員会の下におく。これは本ワークキンググループがおかれていた位置であるが、研究計画を議論する機能ももたせる。

以上の案に対して、午前中のワーキンググループで次のような意見が出た。

○ I の中で非平衡等などの新しい分野が生まれてきたことを指摘すべきである。また、後継者養成にも触れるのがよい。

○整備計画全体の経費について、現在の研究の続行と新しい分野とどう関連するか。

つづいて小松原氏から、以下のような補足説明があった。

本計画の骨子は、各分野の方の意見をうかがってまとめた。極限物性について物性研が超低温・超高压・強磁場の3つを組み合わせる方針を修正したので、外部の極限物性施設をも含めて考えた。たとえば、強磁場の拠点としては阪大、物性研、東北大が、超高压の拠点としては、物性研その他などが浮かんでくる。光関連では大学は遅れているし、他省庁においていつけという意見がある。X線磁気散乱はSRを使うので大型装置かもしれないが将来性ありということを書き込む。

各拠点は装置が中心だが超ウラン施設は、資料を作り外に持ち出さず測定するというための拠点が必要である。

装置を総括し、整備する体制作りが必要である。原料の高純度化も拠点化が必要かも知れない。

なお小型装置についても各研究機関の装置を生かすために科研費終了後のメンテナンス等の

バックアップ体制は必要だろう。

以上の報告につづき、以下のような意見交換があった。

○まず画期的作業に感謝する。5月時点にとりまとめ、報告したい。

○物性から出てくる文書は書き方が内向き、クロウト向きて、自閉症的極限思考が見られる。

○環境学はまだ現象学の域にとどまっている。環境の理論的認識は物理学（物理学、エントロピー概念）によってのみ可能であり、その点でも物理学の有効性を主張すべきである。

○この報告は拠点整備計画の前段階であろうが、内容は専門家にわかってもらえばよいのか、他分野の人にもわかってもらいたいのか。

○到達性についても書いてほしい。例えばアメリカでは80T 定常磁場の計画でNMR を使って抗原抗体反応の時間分解ができるというようなことも書いている。

○何をどこまで用意すれば何が出来るかをはっきり書いてほしい。米国の書類にはそこまで書いてある。

○たとえば、光なら物質合成、プロセシング、加工技術、キャラクタリゼーションがあるが、日本の計画は、キャラクタリゼーションのごく一部にタガをはめる程度である。SRの場合、外国ではビールスの構造解析など生命科学に役に立つというふれこみもあるのに、日本は、結晶にとどまっている。

○それは、われわれが言うべきか生命の人がいいべきか。

○各拠点の位置づけは one of themか, leader of . . . か。

○物性研は産業界から注目されているか。

○自然発生的研究を押さえてはいけないが物性は他分野に比べ組織化が未熟である。装置群による切り込みも必要だが、研究領域毎のソフト面でのネットワーク作りも必要ではなかろうか。

○21世紀のおもしろい研究テーマの議論がない。

○装置群による切り込みは今期のコンセンサスとしよう。その中で何をめざすかということは個人の問題もある。

○この報告を文部省に読んでもらうとすると、文部省に装置名を書いても仕方がないのではないか。

○他分野は装置名をいうのに物性はそれを言わないので「例えば何がほしいか」は教えておいてほしいという要望が文部省はある。

○ソフトについては連絡会しかないのは片手落ちではないか。たとえば教育という観点がない。

○これがないとダメになるぞというものがない。

○キーワードを流布するためにも、この文書が外に出ていくことが必要である。

○いま欲しいものがわかってもらえばよい。

○教育は来期の重要な課題になるだろう。

○物性の中でこれだけまとまっただけで大進歩である。

以上の議論の後、今後の手続きについて長岡委員より次のような発言があり了承された。

本日の議論を参考に書き直し、ワーキンググループのメンバーに見せ、物性専門委員に見ていただき、第2次案を物性グループに公表したい。具体的には、九州での物理学会でインフォーマルミーティングを開き、物性グループのメンバーに相談して意見を聞きたい。

2. 大型施設に関する将来計画WG報告（伊達）

13期に長文のレポートが出て、「物性研だより」の1988年9月号に掲載された。その後、大学の貧困化により、SPring-8を除き予想された進行がなかった。そこで、今回はフォローアップ以外出来ないので、これまでの報告の続論という形で報告したい。SR計画については物性研および各地の中型のもの、さらにSPring-8の利用を含めて、石井委員に原案の執筆を依頼した。パルス中性子については遠藤委員に起草を依頼した。これは、大型ハドロン計画の一部だったが、同計画が十数年日の目を見ないうちに諸外国に水を開けられている。なお、原研は大強度陽子加速器計画をもっている。これは、オメガ計画とよばれる核廃棄物処理計画の中にあり、JT-60 や高温ガス炉に目途がついたのちはじまるだろう。ビームの一部が使えるので、中性子、中間子はこちらの方に動きそうである。

以上の報告に統いて、現状については、石井、遠藤両委員から報告があり、インフォーマルな討論を行った。

物性研究所談話会

日 時 1994年5月9日(月) 午後1時30分～2時30分

場 所 物性研究所 旧棟1階講義室

講 師 上田和夫氏

(所属) (東京大学物性研究所)

題 目 重い電子系と近藤格子モデル

要 旨

稀土類化合物やアクチナイド化合物で見られる重い電子系は、銅酸化物超伝導体とともに、典型的な強相関電子系である。近藤格子モデルは重い電子系に対する基礎的モデルの一つであるが、最近一次元近藤格子の基底状態相図がほぼ明らかになってきた。一次元とは言え多様な基底状態を示し、重い電子系の種々相を考えるのに示唆的である。特に最近話題になっている近藤絶縁体について詳しく議論したい。

日 時 1994年5月27日(金) 午後1時30分～2時30分

場 所 物性研究所 旧棟1階講義室

講 師 Prof. D.D.Osheroff

(所属) (Department of Physics, Stanford University)

題 目 Radiation Induced Superfluid ^3He A to B Phase
Nucleation : Baked Alaska below 1 mK

要 旨

First order phase transitions generally exhibit substantial amounts of supercooling due to the effects of the surface energy which must exist between the high and low temperature phases. In the case of the A to B transition in superfluid helium three, the surface energy is so large and the difference in bulk free energies, which drives the transition, is so small that one calculates a lifetime for homogeneous nucleation at arbitrarily low temperatures which exceeds the age of the universe; yet the transition is always found to occur. Since surfaces favor the high temperature phase, the mechanism for this transition has long been a mystery. Osheroff's group has shown the surface roughness can greatly influence the lifetime of the supercooled state, allowing the A to B transition to take place a factor of 5 below its equilibrium temperature, probably a record for any first order phase transition.

In addition, he finds that ionizing radiation can cause nucleation, in substantial agreement with a 1984 theory by A.J.Leggett called the 'baked Alaska' model. The speaker will discuss his recent results, describe some of the wonderful properties of these unusual analogs to superconductivity, and explain what this all has with baked frozen desserts.

物性研ニュース

東京大学物性研究所の助手公募の通知

下記により助手の公募をいたします。適任者の推薦、希望者の応募をお願いいたします。

1. 研究部門名等及び公募人員数

凝縮系物性部門 高木研究室 助手 1名

2. 研究 内 容

高温超伝導体を含む強相関電子系の物質開発と電子物性の研究

経験の有無は問わないが、輸送現象、比熱などの基本的物性測定を行うと同時に、自ら試料合成を行い、積極的に新しい物質の開拓に取り組む意欲的な若手研究者を希望する。

3. 応募資格

修士課程修了、又はこれと同等以上の能力をもつ人。

4. 任 期

5年以内を原則とする。

5. 公募締切

平成6年8月15日(月)必着

6. 就任時期

決定後なるべく早い時期を希望する。

7. 提出書類

(イ) 推薦の場合

○推薦書(健康に関する所見を含む)

○履歴書(略歴で良い)

○業績リスト(必ずタイプすること)

○主要論文の別刷

(ロ) 応募の場合

○履歴書

○業績リスト(必ずタイプすること)

○主要論文の別刷

○所属の長又は指導教官等の本人についての意見書(宛先へ直送のこと)

○健康診断書

8. 宛 先

〒106 東京都港区六本木 7 丁目22番 1号
東京大学物性研究所 総務課人事掛
電話 03 (3478) 6811 内線 5022, 5004

9. 注 意 事 項

凝縮系物性部門 高木研究室 助手応募書類在中、又は意見書在中の旨を朱書し、書留で郵送
のこと。

10. 選 考 方 法

東京大学物性研究所教授会で審査決定いたします。ただし、適任者のない場合は、決定を保留
いたします。

平成 6 年 5 月 9 日

東京大学物性研究所長

竹 内 伸

東京大学物性研究所の助手公募の通知

下記により助手の公募をいたします。適任者の推薦、希望者の応募をお願いいたします。

1. 研究部門名等及び公募人員数

理論部門 上田研究室 助手 1名

2. 研究内容

物性理論 特に強相関電子系の理論

この分野の研究経験は問わないが、解析的アプローチ、数値計算的手法を併用して、上記課題に取り組む意欲的な若手研究者を希望する。

3. 応募資格

修士課程修了、又はこれと同等以上の能力をもつ人。

4. 任期

5年以内を原則とする。

5. 公募締切

平成6年7月15日（金）必着

6. 就任時期

決定後なるべく早い時期を希望する。

7. 提出書類

(イ) 推薦の場合

- 推薦書（健康に関する所見を含む）
- 履歴書（略歴で結構です）
- 業績リスト（必ずタイプすること）
- 主要論文の別刷

(ロ) 応募の場合

- 履歴書
- 業績リスト（必ずタイプすること）
- 主要論文別刷
- 所属の長又は指導教官等の本人についての意見書（宛先へ直送のこと）
- 健康診断書

8. 宛先

〒106 東京都港区六本木7丁目22番1号

東京大学物性研究所 総務課人事掛

電話 03(3478) 6811 内線 5022, 5004

9. 注意事項

理論部門 上田研究室 助手応募書類在中、又は意見書在中の旨を朱書し、書留で郵送のこと。

10. 選考方法

東京大学物性研究所教授会で審査決定いたします。ただし、適任者のない場合は、決定を保留いたします。

平成6年5月9日

東京大学物性研究所長

竹内伸

人 事 異 動

1. 研究部

(転出)

所 属	職・氏名	発令日	異動内容
理 論 部 門	教授 寺 倉 清 之	6. 4. 1	工業技術院産業技術融合領域研究所 アトメクノロジーグループ主任研究官へ
"	事務官 土 屋 佳奈子	"	金沢大学教養部へ
附属中性子散乱 研究施設	助教授 伊 藤 雄 而	6. 5. 1	山梨大学教授教育学部へ

(昇任・採用・転入等)

所 属	職・氏名	発令日	異動内容
極限物性第一部門 超 強 磁 場	教授 後 藤 恒 昭	6. 4. 1	助教授より
" 極限レーザー	教授 渡 部 俊太郎	"	"
凝縮系物性部門	教授 家 泰 弘	"	"
理 論 部 門	教授 上 田 和 夫	"	筑波大学助教授物質工学系より
凝縮系物性部門	助教授 高 木 英 典	"	工学部講師より
"	助 手 平 澤 正 勝	"	採 用
理 論 部 門	助 手 堀 田 貴 翳	"	"
"	助 手 草 部 浩 一	"	"

所 属	職・氏名	発令日	異動内容
理 論 部 門	助 手 荻 津 格	6 4. 1	採 用
極限物性第一部門 超 高 壓	助 手 内 海 渉	"	休 職 (7.3.31まで)
" 表 面 物 性	技 官 向 井 孝 三	"	採 用
新物質開発部門	技 官 山 内 徹	"	"

(併 任)

所 属	職・氏名	発令日	備 考 (本務先・併任期間)
理 論 部 門	教 授 寺 倉 清 之	6 4. 1	本務：工業技術院産業技術融合領域研究所アトムキノロジーグループ主任研究官(7.3.31まで)
極限物性第二部門 (客員部門)	教 授 青 木 貞 雄	"	本務：筑波大学教授物理工学系(6.9.30まで)
"	助教授 大 野 英 男	"	本務：北海道大学助教授工学部(6.9.30まで)
固 体 物 性 部 門 (客員部門)	教 授 伊 澤 正 陽	"	本務：高エネルギー物理学研究所放射光実験施設放射光光源研究系(7.3.31まで)
"	助教授 武 田 隆 義	"	本務：広島大学助教授総合科学部(6.9.30まで)

2. 事務部

(退職・転出等)

所 属	職・氏名	発令日	異動内容
経理課	用度掛物品主任 穂阪英子	6. 3. 31	定年退職
総務課	庶務主任 (併) 共同利用掛長 安岡邦彦	6. 4. 1	学生部厚生課厚生主任へ
"	人事掛長 伊藤純子	"	分院人事掛長へ
経理課	経理掛長 林美郷	"	経理部経理課出納第一掛長へ

(採用・転入等)

所 属	職・氏名	発令日	異動内容
総務課	庶務主任 (併) 人事掛長 荻原隆治	6. 4. 1	薬学部庶務掛長より
経理課	専門職員(契約担当) (併) 用度掛長 浦邦夫	"	用度掛長より
総務課	共同利用掛長 柳澤賢次	"	地震研究所人事掛長より
経理課	経理掛長 万平忠志	"	宇宙科学研究所主計課総務掛長より
"	用度掛物品主任 福井明美	"	庶務掛研究業務主任より
総務課	庶務掛 事務官 村井照子	"	電話交換手より
経理課	施設掛 技官 金子善栄	"	採用

平成6年度物性研究所協議会委員名簿

所 属	職 名	氏 名	任 期	備 考
東北大(理)	教 授	遠藤康夫(再)	4.9.1~6.8.31	物研連
阪 大(工)	"	興地斐男	"	"
慶應大(理工)	"	川村清	"	"
東北大(理)	"	小松原武美	5.4.1~6.8.31	"
阪 大(基礎工)	"	張 紀久夫	4.9.1~6.8.31	"
京 大(理)	"	廣田襄(再)	"	化研連
東北大(金研)	"	鈴木謙爾(再)	"	東北大・金研
高工ネルギー 物理学研究所	"	岩崎博(再)	"	高工研
東 大(工)	"	藤原毅夫	"	東大・工
東 大(理)	"	鈴木増雄(再)	"	東大・理
"	"	井野正三(再)	"	"
"	"	近藤保(再)	"	"
分子科学研究所	"	丸山有成	"	分子研
京 大(基研)	"	長岡洋介(再)	"	京大・基研
東 大(物性研)	"	松岡正浩(再)	"	所員会・所内委員
"	"	村田好正(再)	"	"
"	"	安岡弘志(再)	"	"
"	"	小谷章雄(再)	"	"
東 大(工)	学部長	合志陽一		官職指定委員
東 大(理)	"	小林俊一		"
"(核研)	所 長	山崎俊光		"
"(事務局)	局 長	佐藤國雄		"

平成 6 年度 共同利用施設専門委員会委員名簿

所 属	職 名	氏 名	任 期	備 考
東北大(理)	教 授	安積 徹	5.4.1~7.3.31	化研連
阪大(産研)	"	川合知二	"	"
阪大(基礎大)	"	菅 滋正	"	物研連
阪大(工)	"	興地斐男	"	"
東北大(理)	"	遠藤康夫	"	"
東北大(理)	"	倉本義夫	"	"
筑波大(物質工)	"	大貫惇睦	"	"
東工大(理)	"	斯波弘行	"	"
信州大(理)	助 手	天児寧	"	"
高工初様-物理学研究所	教 授	大隅一政	"	所員会
分子科学研究所	"	花崎一郎	"	"
名大(理)	教 授	関 一彦	6.4.1~8.3.31	化研連
室蘭工大(工)	"	保志賢介	"	物研連
名大(理)	"	佐藤正俊	"	"
広大(総合)	助教授	高畠敏郎	"	"
広大(理)	教 授	藤田敏三	"	"
阪大(理)	"	都 福仁	"	"
名大(理)	"	黒田義浩	"	"
学習院大(理)	"	溝口正	"	"
筑波大(物理)	"	高山一	"	"
東大(理)	助教授	藤森淳	"	所員会

平成 6 年度 軌道放射物性研究施設運営委員会委員名簿

役名	所 属	職名	氏 名	任 期	備 考
委員長	物 性 研 究 所	教 授	石 井 武 比 古	6.1.1~7.12.31	再 任
委 員	"	"	小 谷 章 雄	"	再 任
"	"	"	神 谷 幸 秀	"	再 任
"	"	"	家 泰 弘	"	
"	"	助教授	柿 崎 明 人	"	再 任
"	"	"	辛 埼 塾	"	再 任
"	東京大学(核研)	教 授	山 田 作 衛	"	再 任
"	東 北 大 学 (理)	"	佐 藤 繁	"	再 任
"	群 馬 大 学 (育)	"	菅 原 英 直	"	
"	大 阪 大 学 (基礎工)	"	菅 滋 正	"	再 任
"	東 京 大 学 (理)	"	小 間 篤	"	
"	東 京 大 学 (理)	助教授	藤 森 淳	"	再 任
"	高 工 ネ ル ギ 一 物 理 学 研 究 所	教 授	岩 崎 博	"	再 任
"	分 子 科 学 研 究 所	"	藥 師 久 彌		再 任

平成 6 年度 外来研究員等委員会委員名簿

委員長	毛利信男	5.4.1~7.3.31	委員長任期 6.4.1~7.3.31
委員	今田正俊	"	
"	田中虔一	6.4.1~8.3.31	
"	末元徹	"	
所外委員	大貫惇睦	5.4.1~7.3.31	筑波大(物質工)
"	安積徹	"	東北大(理)
"	黒田義浩	6.4.1~8.3.31	名古屋大学(理)
"	高畠敏郎	"	広島大学(総合科学)

平成 6 年度 人事選考協議会委員名簿
(物研連推薦)

所 属	職 名	氏 名	任 期	備 考
広島大(理)	教 授	藤田敏三	5.4.1~7.3.31	
阪大(基礎工)	"	張紀久夫	"	
東工大(理)	"	斯波弘行	6.4.1~8.3.31	
東 大(理)	"	小林俊一	"	
東北大(金研)	"	本河光博	"	

平成 6 年度 中性子散乱研究施設運営委員会委員名簿

役 名	所 属	職 名	氏 名	任 期	備 考
委員長	物性研究所	教 授	藤井保彦	5.4.1~7.3.31	
委 員	"	助教授	伊藤雄而	"	
"	"	"	吉澤英樹	"	
"	"	"	加倉井和久	"	
"	"	教 授	毛利信男	"	
"	"	"	村田好正	"	
"	東京大学(原総セ)	助教授	伊藤泰男	"	
"	高エネルギー 物理学研究所	教 授	渡辺昇	"	
"	京都大学(原子炉)	"	宇津呂雄彦	"	
"	東北大学(理)	"	遠藤康夫	"	
"	東北大学(金研)	"	山口泰男	"	
"	名古屋大学(工)	"	野田一郎	"	
"	九州大学(理)	"	川崎恭治	"	
"	日本原子力研究所 先端基礎センター	室 長	新村信雄	6.1.1~7.3.31	
"	日本原子力研究所 東海研究所	"	森井幸生	"	

平成 6 年度 中性子散乱実験審査委員会委員名簿

役名	所 属	官職	氏 名	分野	備 考
委員長	早大・理工総研	教 授	山田 安定	B	6.4.1~7.3.31
"	筑波大・物質工学系	"	浅野 肇	B	"
"	高エネルギー研	"	池田 宏信	A	"
"	東北大・理	"	遠藤 康夫	A	"
"	京大・工	"	長村 光造	B	"
"	京大・化研	"	梶 慶輔	C	"
"	阪大・理	"	徳永 史生	C	"
"	原研・先端研	室 長	新村 信雄	C	"
"	名大・工	教 授	野田 一郎	C	"
"	千葉大・理	助教授	野田 幸男	B	"
"	京大・工	"	橋本 竹治	C	"
"	東大・理	教 授	福山 秀敏	A	"
"	広大・総合科学	"	藤井 博信	A	"
"	新潟大・理	"	三沢 正勝	B	"
"	青学大・理	"	秋光 純	A	"
"	慶大・理工	"	若林 信義	B	"
"	原研・中性子散乱	室 長	森井 幸生	指 定	"
"	東大・物性研	教 授	藤井 保彦	指 定	"

注) A : 磁性(理論を含む) 分野

B : 構造, 材料, 化学, 液体, 非晶質(理論を含む) 分野

C : 高分子, 生物(理論を含む) 分野

平成 6 年度 前期 短期研究会一覧

研 究 会 名	開催期日	参 加 予定人数	提 案 者
ペロブスカイト型結晶の構造相転移と物性	6月6日 6月7日 (2日間) 10:00	40名	○石 橋 善 弘(名大・工) 藤 井 保 彦(東大・物性研) 辛 城 塙(東大・物性研) 重 成 武(電 通 大)
超低温物理の最近の動向と展望	8月4日 8月5日 (2日間) 13:00	80名	○石 本 英 彦(東大・物性研) 佐 藤 武 郎(東北大・理) 児 玉 隆 夫(大阪市大・理) 馬 宮 孝 好(名大・理)

平成 6 年度 前期外来研究員一覧

嘱託研究員

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
金沢大 (理) 助教授	鈴木治彦	5/16~5/21 7/18~7/23	金属中の核スピン秩序	石本
広島大 (総合) 教 授	永井克彦	6/6~6/10	^3He - ^4He 混合液における近接効果	"
北教大 (教育) 教 授	高柳 滋	6/6 ~6/11 9/12~9/17	低温・高圧下における輸送現象測定装置の開発	毛利
岡山大 (理) 助教授	原田勲	4/1 ~9/30 上記期間中 (3泊4日・2回)	磁性体の光学的性質の理論研究	小谷
山口大 (教育) 助教授	岡田耕三	4/1 ~9/30 上記期間中 (3泊4日・2回)	dおよびf電子系の高エネルギー分光理論	"
N T T (基礎研) 研究員	上田正仁	4/1 ~9/30 上記期間中 (週5日)	メゾスコピック系における量子輸送現象	安藤
東北大 (理) 教 授	山川達也	5/10 6/20	高輝度光源の基本設計	石井
東北大 (理) 教 授	佐藤繁	5/25~5/26 7/14~7/15	アクチナイド化合物の電子状態の研究	"
広島大 (理) 教 授	谷口雅樹	5/25~5/26 7/14~7/15	Ce化合物の光電子分光実験	"
東大 (核研) 助 手	武藤正文	5/13 6/10 7/15	高輝度光源計画における加速器電磁石の設計	神谷

嘱託研究員

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
高工研 教 授	春 日 俊 夫	5/13 6/10	高輝度光源計画における加速器モニタリング・システムに関する研究	神 谷
高工研 助 手	中 村 典 男	5/13 6/10	高輝度放射光リングにおけるビームの不安定性の研究	"
高工研 助 手	堀 洋 一 郎	5/13 6/10	高輝度光源計画の加速器における真空システムの設計	"
高工研 助 手	家 入 孝 夫	5/13 6/10	ビーム設計システムの開発研究	"
高工研 助 手	飛 山 真 理	5/13 6/10	電子入射器(高輝度光源計画)の設計	"
高工研 助 手	小 林 幸 則	5/13 6/10	高輝度光源リングのラティス設計及び色収差補正に関する研究	"
阪大 (産研) 教 授	磯 山 悟 朗	5/13 6/10	アンジュレータの基本設計	"
理化学研究所 先任研究員	大 熊 春 夫	5/13 6/10 7/15	放射光光源における挿入型光源の研究	"
理化学研究所 研究員	田 中 均	5/13 6/10 7/15	直線及び円偏光アンジュレータが電子ビームに与える影響について	"
理化学研究所 研究員	安 東 愛 之 輔	5/13 6/10 7/15	光輝度光源計画のリング設計及び軌道解析	"
日本原子力研 副主任研究員	佐々木 茂 美	5/13 6/10 7/15	光輝度光源計画におけるインサーションデバイスの設計研究	"

嘱託研究員

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
高工研 助教授	田 中 健一郎	5/10 6/20	高輝度光源を利用する 実験設備の基本設計	柿崎
東北大 (科 研) 教 授	渡 辺 誠	5/10~5/11 6/20~6/21	高輝度光源に適合する 分光光学系の基本設計	"
東北大 (理) 助教授	鈴 木 章 二	5/10~5/11 6/20~6/21	"	"
東北大 (科 研) 助 手	柳 原 美 廣	5/20 6/20	"	"
群馬大 (教 育) 教 授	菅 原 英 直	5/10~5/11 6/20~6/21	"	"
大阪市立大 (工) 助教授	石 黒 英 治	5/10~5/11 6/20~6/21	"	"
名大 (理) 教 授	関 一 彦	5/10~5/11 6/20~6/21	高輝度光源を利用する 実験設備の基本設計	"
東北大 (科 研) 助教授	服 部 武 志	5/10 6/20	"	"
阪 大 (基礎工) 助教授	大 門 寛	5/10~5/11 6/20~6/21	"	"
高工研 教 授	宮 原 恒 昕	5/10 6/20	"	"
高工研 助教授	柳 下 明	5/10 6/20	"	"

嘱託研究員

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所 員
高工研 助教授	伊 藤 健 二	5/10 6/20	高輝度光源を利用する 実験設備の基本設計	柿 崎
高工研 助手	加 藤 博 雄	5/10 6/20	"	"
分子研 教 授	小 杉 信 博	5/10~5/11 6/20~6/21	"	"
東北大 (工) 助教授	近 藤 泰 洋	4/1 ~9/30 上記期間中 (1泊2日・2回)	軟X線発光分光器の整備	辛
東大 (工) 助教授	永 長 直 人	4/20	軟X線ラマン散乱の研究	"
岐阜大 (工) 助教授	松 下 栄 子	4/27~4/28 5/18~5/19	KDPの電子状態の研究	"
京 大 (工) 助 手	河 合 潤	4/20~4/23 5/10~5/13	銅化合物の発光実験	"
分子研 助 手	木 村 真 一	4/20~4/23 5/10~5/13	希土類化合物の発光実験	"
東北大 (理) 助教授	神 木 正 史	4/5 4/25~4/26	物性研究における中性子分光器の有効利用について	加倉井
京 大 (工) 助 手	長谷川 博 一	4/5 4/25~4/26	高分子研究における中性子分光器の有効利用	"
阪 大 (理) 講 師	稻 葉 章	4/5 4/25~4/26	化学における中性子分光器の利用について	"

一 般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所 員
埼 玉 大 (工) 助 教 授	鎌 田 憲 彦	4/1~9/30 上記期間中 (週 2 日)	半導体中ホットキャリアの強磁場物性	三 浦
埼 玉 大 (工) 助 手	山 口 克 彦	4/1~9/30 上記期間中 (週 2 日)	"	"
埼 玉 大 (理工学) D. C. 3	狩 野 英 司	4/1~9/30 上記期間中 (週 2 日)	"	"
埼 玉 大 (理工学) D. 2	小 編 明	4/1~9/30 上記期間中 (週 2 日)	"	"
筑 波 大 (物質工) 教 授	滝 田 宏 樹	4/1~9/30 上記期間中 (日帰り・2回)	希薄磁性半導体の強磁場物性	"
筑 波 大 (物質工) 講 師	黒 田 真 司	4/1~9/30 上記期間中 (日帰り・2回)	"	"
筑 波 大 (工) D. C. 3	児 島 一 聰	4/1~9/30 上記期間中 (日帰り・2回)	"	"
筑 波 大 (工) D. C. 2	小 林 康 史	4/1~9/30 上記期間中 (日帰り・2回)	"	"
東 大 (工) 教 授	内 野 倉 國 光	4/1~9/30 上記期間中 (3 週間)	スピニ・パイエルス物質CuGeO ₃ の磁場印加効果	"
東 大 (大・理) 教 授	十 倉 好 紀	4/1~9/30 上記期間中 (月 4 日)	(La, Sr)MnO ₃ の磁気光学効果	"
東 大 (大・理) D. C. 2	勝 藤 拓 郎	4/1~9/30 上記期間中 (月 4 日)	"	"

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所 員
東 大 (大・理) M. C. 2	沖 本 洋 一	4/1~9/30 上記期間中 (月4日)	(La, Sr)MnO ₃ の磁気光学効果	三 浦
東 大 (教養) 教 授	鹿児島 誠 一	4/1~9/30 上記期間中 (週3日)	有機低次元導体の強磁场下の物性	"
東 大 (大・理) D. C. 2	品 川 秀 行	4/1~9/30 上記期間中 (週3日)	"	"
東 大 (大・理) D. C. 2	斎 藤 裕	4/1~9/30 上記期間中 (週3日)	"	"
東 大 (大・理) D. C. 1	山 口 智 弘	4/1~9/30 上記期間中 (週3日)	"	"
山 梨 大 (教 育) 助 手	渡 辺 勝 儀	7/18~7/21	Bi ₂ 薄膜結晶のバンド端励起子の超強磁场下における磁気吸収スペクトルの測定	"
阪 大 (工) 教 授	浜 口 智 尋	4/1~9/30 上記期間中 (2泊3日・1回)	超強磁场下における(GaAs) _n (AlAs) _n 短周期超格子の赤外サイクロトロン共鳴に関する研究	"
阪 大 (低温セ) 助 手	百瀬 英毅	4/1~9/30 上記期間中 (2泊3日・1回)	"	"
阪 大 (工) M. C. 2	福 田 健 志	4/1~9/30 上記期間中 (2泊3日・1回)	"	"
姫路工大 (理) 助 教 授	嶽 山 正二郎	5/23~5/28	半磁性半導体の量子ホール領域での磁気光効果	"
国際超電導産業 技術研究センター 超電導工学研 主任研究員	中 尾 公 一	4/1~9/30 上記期間中 (週1日)	パルス超強磁场による 高温超電導体のBc ₂ の 測定	"

一 般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所 員
東北大 (工) 教 授	深道和明	5/16~5/19	20面体クラスターAmo ルファス合金の強磁場 物性	後藤
東北大 (工) M. C. 2	橋倉学	5/16~5/19	"	"
東北大 (工) 助教授	瀬岡教行	5/16~5/19	巨大磁気抵抗を示すナ ノ・グラニュラー磁性 体の磁化過程	"
東北大 (工) D. C. 2	金益準	5/16~5/19	"	"
東北大 (工) D. C. 3	服部靖匡	6/20~6/24	希土類磁性超伝導化合 物のメタ磁性転移	"
東北大 (工) D. C. 1	藤田麻哉	6/13~6/17	アモルファス合金のス ピンの揺らぎに関する 研究	"
東北大 (工) M. C. 2	鈴木健	6/13~6/17	"	"
横浜国大 (工) 教 授	山口益弘	4/1~4/14 6/1~6/14 8/1~8/14	希土類一遷移金属化合 物および水素化物の磁 性の研究	"
福井大 (工) 助教授	網代芳民	4/1~9/30 上記期間中 (3泊4日・1回)	低次元格子磁性体にお ける磁場誘起相転移	"
福井大 (工) M. C. 2	杉野司	4/1~9/30 上記期間中 (3泊4日・1回)	"	"
熊本大 (教養) 助教授	巨海玄道	7/10~7/12	重い電子系物質CeInCu ₂ の磁化に及ぼす圧力効 果	"

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所 員
熊本大 (自然科学) D. C. 3	加賀山 朋 子	7/10~7/15	重い電子系物質CeInCu ₂ の磁化に及ぼす圧力効 果	後 藤
熊本大 (理) M. C. 1	櫻 井 康 弘	7/10~7/15	"	"
東北学院大 (工) 教 授	鹿 又 武	5/23~5/25	鉄族金属間化合物の高 圧力下強磁場磁化測定	"
東北学院大 (工) M. C. 2	石 壇 秀 高	5/23~5/29	"	"
東北学院大 (工) M. C. 2	遠 藤 英 治	5/23~5/29	"	"
東京医大 講 師	大 岩 潔	6/20~6/24 7/18~7/22	ホイスラー型金属間化 合物の高磁場磁化	"
横浜国大 (工) 助 手	武 田 淳	5/16~5/20 上記期間中 (週 3 日)	一次元ハロゲン架橋白 金錯体の光誘起欠陥に おける共鳴ラマン散乱	末 元
東京理科大 (理) 助 教 授	塚 本 桓 世	4/1~9/30 上記期間中 (週 2 日)	各種半導体におけるフ ェムト秒時間分解ラマ ン散乱の測定	"
東京理科大 (理) D. C. 1	大 竹 秀 幸	4/1~9/30 上記期間中 (週 2 日)	"	"
宇都宮大 (教 養) 助 教 授	江 川 千佳司	4/20 5/25	準安定fcc 構造鉄薄膜 におけるダイナミクス の研究	村 田
山梨大 (教 育) 教 授	川 村 隆 明	4/1~9/30 上記期間中 (4泊 5 日・1回)	成長表面でのダイナミ クス	"

一 般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
鳥取大 (教養) 助教授	石井 晃	5/8~5/13	ポジトロニウムを用いた表面分光法の開発	村田
北大 (理) 教 授	山岸 眭彦	7/16~7/18	金属錯体单分子膜の構造研究	田中
北大 (理) 助 手	谷口 昌宏	8/1~8/31	合金表面の反応性の動的研究	"
北大 (触媒セ) 助教授	柄原 浩	6/6~6/12	表面秩序合金の形成過程	"
北大 (触媒セ) 助 手	水野 清義	6/6~6/12	"	"
北大 (触媒セ) 助教授	荒又 明子	6/9~6/11	電位印加下での結晶成長に関する研究	"
東北大 (情報科学) 助教授	佐々木 一夫	6/1~6/4	吸着によって生じる表面構造の解析	"
筑波大 (物質工) 講 師	中村 潤児	7/18~7/28	金属単結晶表面に生成する表面化合物の構造と反応性	"
金沢大 (自然科学) D. C. 2	小池 良浩	6/6~6/12	S。金属の核磁性	石本
金沢大 (理) M. C. 2	飯田 善一	6/13~6/19	"	"
金沢大 (理) M. C. 1	宮本 昭栄	6/20~6/26	"	"

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所 員
東京工大 (極低温セ) 助 教 授	大 熊 哲	5/1~8/31 上記期間中 (月5日)	極低温下における2次元超伝導体の電子状態の研究	河 野
北 大 (理) 教 授	三本木 孝	4/1~9/30 上記期間中 (6泊7日・1回)	有機伝導体の圧力効果	毛 利
北 大 (理) D. C. 3	長 沢 光 晴	4/1~9/30 上記期間中 (6泊7日・1回)	"	"
東北大 (理) 助 教 授	佐 藤 正 樹	9/5~9/9	NiAs型化合物の高圧下の物性	"
東北大 (理) 助 手	小 林 寿 夫	9/5~9/9	"	"
東北大 (理) 助 教 授	笠 谷 光 男	7/11~7/16	半導体的価数揺動物質 CePtBiの高圧下の物性	"
東北大 (理) D. C. 2	鈴 木 裕 之	7/11~7/16	"	"
東北大 (理) M. C. 2	吉 居 俊 輔	7/11~7/16	"	"
東北大 (理) D. C. 1	松 村 武	6/1~6/15	半導体物質希土類モノカルコゲナイトの高圧下における物性	"
東北大 (理) M. C. 2	堀 田 英 輔	7/1~7/15	異常な絶縁物Sm ₃ Se ₄ 及びSm ₃ Te ₄ の圧力下の物性	"
東 大 (教 養) 助 教 授	和 田 信 雄	4/1~9/30 上記期間中 (週3日)	多重極限装置開発と物性研究	"

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
東 大 (大・理) D. C. 2	川 口 康	4/1~9/30 上記期間中 (週 3 日)	多重極限装置開発と物 性研究	毛 利
東 大 (大・理) 教 授	十 倉 好 紀	4/1~9/30 上記期間中 (月 4 日)	(La, Sr)MnO ₃ の高圧物 性	"
東 大 (大・理) D. C. 1	山 口 伸 也	4/1~9/30 上記期間中 (月 4 日)	"	"
東 大 (大・理) 助 手	有 馬 孝 尚	4/1~9/30 上記期間中 (週 1 日)	高圧合成法による新し い超伝導体の探索	"
電気通信大 D. C. 2	石 田 進	4/1~9/30 上記期間中 (週 1 日)	静水圧下でのFe ₃ O ₄ の 超音波測定	"
静 岡 大 (理) 助 教 授	石 館 健 男	9/12~9/17	チタン酸バリウムの温 度圧力相図	"
島 根 大 (教 育) 助 教 授	秋 重 幸 邦	9/5~9/10	低温高圧下での酸化物 強誘電体の物性	"
広 島 大 (総 合) 助 教 授	小 島 健 一	4/1~9/30 上記期間中 (6泊 7日・1回)	YbInCu ₄ の価数転移温 度の圧力依存性	"
広 島 大 (生物圏) M. C. 1	原 田 明	4/1~9/30 上記期間中 (6泊 7日・1回)	"	"
九州工大 (情報工学) 教 授	対 馬 国 郎	4/1~9/30 上記期間中 (4泊 5日・1回)	ビスマス系酸化物超伝 導体単結晶の圧力効果	"
九州工大 (情報工学) 助 手	渡 辺 直 寛	4/1~9/30 上記期間中 (12泊13日・1回)	"	"

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所 員
東 大 (大・理) D. C. 1	中 西 剛 司	4/1~9/30 上記期間中 (12泊13日・1回)	ビスマス系酸化物超伝導体単結晶の圧力効果	毛 利
九 州 工 大 (情報工学) M. C. 2	深 町 啓 介	4/1~9/30 上記期間中 (12泊13日・1回)	" "	"
九 州 工 大 (情報工学) M. C. 1	上 田 裕 司	4/1~9/30 上記期間中 (12泊13日・1回)	" "	"
熊 本 大 (教 養) 講 師	上 床 美 也	7/17~7/24 上記期間中	CeRhSbの高圧下での物性測定	"
熊 本 大 (理) M. C. 1	石 井 貴 幸	7/17~7/24 上記期間中	" "	"
北 海 道 東 海 大 教 授	四 方 周 輔	8/22~8/27 上記期間中	高圧下における酸化物超伝導体の輸送現象	"
東 北 学 院 大 (工) 教 授	鹿 又 武	6/13~6/15 上記期間中	鉄族金属間化合物の高温, 高圧力下における構造相転移の研究	"
東 北 学 院 大 (工) M. C. 2	石 垣 秀 高	6/13~6/19 上記期間中	" "	"
東 北 学 院 大 (工) M. C. 2	菊 地 純	6/13~6/19 上記期間中	" "	"
青 山 学 院 大 (理 工) 教 授	秋 光 純	4/1~9/30 上記期間中 (週1日)	超高压合成による新物質探索	"
青 山 学 院 大 (理 工) M. C. 2	魚 嶋 稔	4/1~9/30 上記期間中 (週1日)	" "	"

一 般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所員
東京電機大 (工) M. C. 2	高 井 充	4/1~9/30 上記期間中 (週 3 日)	高圧下における各種超伝導体の物性研究	毛 利
岡山理科大 (理) D. C. 1	匠 正 治	9/1~9/14	三重障壁共鳴トンネル ダイオードの電流電圧 特性に及ぼす圧力効果	"
電 総 研 主任研究官	伊 賀 文 俊	4/1~9/30 上記期間中 (2 週間)	希土類近藤物質及び Mott-Hubbard型遷移金属酸化物の圧力効果	"
国際超電導産業 技術研究センター 超電導工学研 主任研究員	清 地 宣 明	4/1~9/30 上記期間中 (週 1 日)	銅酸化物の超高圧合成	"
国際超電導産業 技術研究センター 超電導工学研 主任研究員	安 達 成 司	4/1~9/30 上記期間中 (週 1 日)	"	"
国際超電導産業 技術研究センター 超電導工学研 客員研究員	靳 常 青	4/1~9/30 上記期間中 (週 1 日)	"	"
国際超電導産業 技術研究センター 超電導工学研 客員研究員	Patrick Laffez	4/1~9/30 上記期間中 (週 1 日)	"	"
国際超電導産業 技術センター-超電導 工学研 主任研究員	小 菅 道 和	4/1~9/30 上記期間中 (週 2 日)	高圧下の酸化物超伝導 体の研究	"
国際超電導産業 技術研究センター-超 電導工学研 研究員	渡 辺 宣 朗	4/1~9/30 上記期間中 (週 2 日)	"	"
室蘭工大 (工) 教 授	城 谷 一 民	8/7~8/17	NbPSの高圧合成と超伝導	八 木
室蘭工大 (工) M. C. 1	角 谷 比 淑	8/7~8/17	"	"

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所 員
東 大 (工) 教 授	内 野 倉 國 光	4/1~9/30 上記期間中 (3週間)	スピニ・パイエルス物質CuGeO ₃ の高圧合成	八 木
電気通信大 助 教 授	高 木 康 成	4/1~9/30 上記期間中 (週1日)	ダイヤモンドアンビルセル(D A C)による強誘電体等のガラス散乱スペクトルの圧力依存性の研究	"
阪 大 (教 養) 助 手	永 井 隆 哉	7/4~7/8	水酸化カルシウムCa(OH) ₂ の圧力誘起非晶質化について	"
愛 媛 大 (理) 助 教 授	入 船 徹 男	9/1~9/8	超高压下でのケイ酸塩多成分系の相平衡	"
愛 媛 大 (理) M. C. 2	小 泉 友 美	9/1~9/10	"	"
愛 媛 大 (理) M. C. 2	福 濱 勝 臣	9/1~9/10	"	"
中 央 大 (理 工) 教 授	深 井 有	4/1~9/30 上記期間中 (週2日)	超高压水素圧下における金属水素化物の生成	"
電 総 研 主任研究官	近 藤 道 雄	6/1~6/3	高圧を用いたアモルファスシリコンの構造準安定性の研究	"
分 子 研 助 手	長 谷 川 真 史	9/19~9/23	超高压重合による高分子錯体単結晶の合成	"
東 大 (工) 助 教 授	前 田 康 二	4/1~9/30 上記期間中 (週1日)	半導体結晶中の転位運動	竹 内
東 工 大 (総合理工学) 助 手	神 藤 欣 一	4/1~9/30 上記期間中 (週1日)	体心立方金属中のテソン転位の芯構造とパイエルス・ボンシャルの計算	"

一 般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所 員
島根大 (教 育) 教 授	神志那 良 雄	7/18~7/20	準結晶の構造と物性	竹 内
青山学院大 (理 工) 助 手	塙 谷 百 合	4/1~9/30 上記期間中 (週 1 日)	置換型不規則二次合金 中の電子状態の理論計算	"
東京理科大 (理) 教 授	津 田 惟 雄	4/1~9/30 上記期間中 (月 1 日)	高温超伝導体のトンネル効果	"
東京理科大 (理) 助 手	嶋 田 大 介	4/1~9/30 上記期間中 (週 1 日)	"	"
東京理科大 (理) 教 授	津 田 惟 雄	4/1~9/30 上記期間中 (月 1 日)	準結晶の物性	"
東京理科大 (理) D. C. 3	吉 岡 明 紀	4/1~9/30 上記期間中 (週 3 日)	"	"
東京理科大 (理) M. C. 2	本 田 裕 子	4/1~9/30 上記期間中 (週 3 日)	"	"
東 洋 大 (工) 助 教 授	渋 谷 忠 治	4/1~9/30 上記期間中 (週 2 日)	準結晶の電気伝導	"
日 大 (文 理) 助 手	大 川 哲 植	4/1~9/30 上記期間中 (週 2 日)	準結晶の構造と物性	"
東 北 大 (理) 助 手	高 木 滋	7/4~7/9	重い電子系化合物のNMRによる研究	安 岡
東 北 大 (理) M. C. 2	佐 藤 和 久	7/4~7/9	"	"

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所 員
埼玉大 (教育) 教 授	津 田 俊 信	4/1~9/30 上記期間中 (週1日)	酸化物高温超伝導体およびその関連物質の核磁気共鳴	安 岡
阪 大 (基礎工) 助 教 授	那 須 三 郎	5/30~6/3	鉄中炭素の電子状態	"
阪 大 (基礎工) M. C. 2	樋 野 村 徹	5/30~6/3	"	"
徳島大 (工) 助 教 授	大 野 隆	4/10~4/17	高温超伝導体 $Y_{1-x}Pr_x$ $Ba_2Cu_3O_7$ のCu-NQR	"
東京医大 講 師	大 岩 潔	7/25~7/29 8/15~8/19	強磁性金属合金、化合物のNMR	"
室蘭工大 (工) M. C. 2	館 健 二	8/7~8/17	ZrRuSiの磁性	木 下
金沢大 (理) 助 教 授	堤 喜 登 美	4/24~5/7	CoSi ₂ の超伝導	石 川
金沢大 (理) M. C. 2	永 島 裕 記	4/24~5/7	"	"
山口大 (機器分析セ) 助 教 授	繁 岡 透	5/16~5/19	CePt ₂ Sn ₂ における重い電子系の研究	"
広島大 (総 合) 助 教 授	高 富 敏 郎	8/8~8/11	"	"
山口大 (理) D. C. 1	江 口 正 和	5/16~5/19	"	"

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
富山県立大 (工) 助 教 授	前 沢 邦 彦	4/1~9/30 上記期間中 (2泊3日・1回)	α -Ceおよび β -Ce単結晶の比熱と帶磁率	石 川
山形大 (工) 助 手	神 戸 士 郎	8/1~8/5	Bi系超伝導体及び類縁物質の電気伝導特性	家
東 大 (教 養) 教 授	鹿児島 誠 一	4/1~9/30 上記期間中 (週3日)	有機低次元導体の角度 依存磁気抵抗の研究	"
東 大 (大・理) D. C. 1	花 咲 徳 亮	4/1~9/30 上記期間中 (週3日)	"	"
東 大 (大・理) 教 授	十 倉 好 紀	4/1~9/30 上記期間中 (月2日)	(La, Sr)MnO ₃ のホール 係数	"
東 大 (大・理) D. C. 1	山 口 伸 也	4/1~9/30 上記期間中 (月4日)	"	"
東邦大 (理) 教 授	梶 田 晃 示	4/1~9/30 上記期間中 (月3日)	有機伝導体の強磁場下 電気伝導	"
お茶の水女子大 (理) 助 教 授	今 野 美智子	4/1~9/30 上記期間中 (週1日)	混合原子価化合物の相 転移の研究	武 居
阪 大 (教 養) 助 手	永 井 隆 哉	6/6~6/10	フォルステライト (Mg ₂ SiO ₄) の蒸発速度 の決定	"
阪 大 (理) M. C. 2	高 橋 利 夫	6/6~6/10	"	"
岡山大 (地内研) 教 授	伊 藤 英 司	5/31~6/7	地球マントル構成相の 大型単結晶の育成	"

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
東京商船大 (商 船) 助 教 授	和 泉 充	4/1~9/30 上記期間中 (月 7 日)	長鎖アルキルをもつT TF系電荷移動塩の合 成	加 藤
東京商船大 (商 船) 助 手	大 貫 等	4/1~9/30 上記期間中 (月 7 日)	"	"
東京商船大 (商 船) M. C. 2	北 村 一 浩	4/1~9/30 上記期間中 (月 7 日)	"	"
東 北 大 (理) 助 教 授	國 井 曜	6/20~6/23	重希土類ヘキサボライ ドの物性	電磁気 測 定
金 沢 大 (理) 助 教 授	堤 喜 登 美	8/1~8/6	金属間化合物の磁性と 超伝導	"
金 沢 大 (理) M. C. 2	永 島 裕 記	8/1~8/6	"	"
信 州 大 (理) 教 授	永 井 寛 之	6/6~6/10	金属間化合物 RA1系の 磁化率測定(R=希土類 元素)	"
信 州 大 (理) 助 手	天 児 寧	6/6~6/10	金属間化合物 R(Mn, Fe) ₁₂ 系の磁化測 定	"
信 州 大 (理) M. C. 2	佐 岡 俊次郎	6/6~6/10	"	"
鳥 取 大 (教 育) 助 教 授	安 藤 由 和	7/11~7/15	RNiSn単結晶の磁性	"
山 口 大 (機器分析セ) 助 教 授	繁 岡 透	7/11~7/15	"	"

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
九州共立大 (工) 助 教 授	牧 原 義 一	7/10~7/14	RNiSn単結晶の磁性	電磁気 測 定
広 島 大 (総 合) 助 教 授	高 畠 敏 郎	7/11~7/14	近藤半導体CeRhSbの磁化と磁気抵抗	"
広 島 大 (生物圏) D. C. 3	前 田 康 臣	7/11~7/14	"	"
広 島 大 (生物圏) D. C. 2	中 本 剛	7/11~7/14	"	"
北陸先端科技大 助 教 授	栗 栲 牧 生	7/18~7/22	鉄ラーベス相化合物単結晶の磁性	"
北陸先端科技大 M. C. 1	三 俣 哲	7/18~7/22	"	"
北陸先端科技大 M. C. 1	山 本 慎 也	7/18~7/22	"	"
北陸先端科技大 M. C. 2	山 本 桂 一 郎	7/18~7/22	"	"
富山県立大 (工) 助 手	横 道 治 男	4/18~4/21	電子スピノ共鳴法によるハロゲンドープフラー-レンにおける電子状態の研究	"
東京電機大 (工) 教 授	田 卷 明	4/1~9/30 上記期間中 (10日)	dHuA効果によるフェルミ面の測定	"
長野高専 助 教 授	藤 原 勝 幸	5/10~5/12	金属水素化物 (Nd _{1-x} Lax Co ₅ Hy の磁性	"

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
高松高専 教 授	明 神 教 久	6/20~6/25	希土類化合物 $R_2Co_{14}B$ の磁性研究	電磁気 測 定
東北大 (金材研) 助 教 授	橋 詰 富 博	7/19~7/21	アトムプローブによる 半導体-金属界面の研 究	電 子 顕微鏡
東 大 (工) D. C. 3	崔 祺	4/1~9/30 上記期間中 (月2日)	アルミニウム合金の時 効析出組織の構造解析	"
北陸先端科技大学 助 手	土 家 琢 磨	7/4~7/6	半導体微細構造におけ る電子-フォノン相互 作用	安 藤
大阪府立大 (工) 助 手	田 中 智	4/1~9/30 上記期間中 (5泊6日・1回)	f およびd電子系のX 線発光スペクトルの理 論	小 谷
姫路工大 (理) 助 手	坂 井 徹	9/5~9/9	低次元磁性体の統計力 学	高 橋 (實)
東北大 (理) 助 手	山 上 浩 志	6/14~6/18	有効ボテンシャル展開 法による原子やクラス ターの電子状態の計算	高 田
九州大 (理) 助 手	渕 崎 員 弘	9/1~9/11	フラーレンの生成と成 長構造	藤 井
自治医大 教 授	青 野 修	4/1~9/30 上記期間中 (1泊2日・1回)	膜の諸性質の理論	伊 藤
信州大 教 授	勝 木 渥	5/12~5/13	物性物理学史	外来委
日 大 (理工) 教 授	西 尾 成 子	4/1~9/30 上記期間中 (1日)	"	"

一 般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所 員
日 大 (理 工) 専 任 講 師	植 松 英 穂	4/1~9/30 上記期間中 (1 日)	物性物理学史	外 来 委

S O R

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所 員
東 大 (工) 教 授	I - 1 内 田 慎 一	5/9~5/13	Y_2BaNiO_5 の光反射スペクトル	S O R
東 大 (工) 助 手	永 崎 洋	5/9~5/13	"	"
東 大 (工) D. C. 2	玉 作 賢 治	5/9~5/13	"	"
広 島 大 (理) 助 教 授	I - 2 生 天 目 博 文	5/22~5/28	逆光電子分光用高効率 ・高分解能光検出器の 性能試験	"
広 島 大 (理) 教 授	谷 口 雅 樹	5/15~5/20	"	"
広 島 大 (理) M. C. 2	田 村 昌 望	5/15~5/28	"	"
広 島 大 (理) M. C. 1	仲 武 昌 史	5/15~5/28	"	"
広 島 大 (理) D. C. 1	三 村 功 次 郎	5/15~5/28	"	"
徳 山 高 専 助 教 授	植 田 義 文	5/15~5/28	"	"
東 北 大 (科計研) 助 教 授	I - 3 服 部 武 志	6/13~6/24	超イオン導電体のバン ド端構造の研究	"
東 北 大 (科計研) 技 官	千 葉 裕 輝	6/13~6/24	"	"

S O R

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
東北大 (理) D. C. 3	河原田 至	6/13~6/24	超イオン導電体のバン ド端構造の研究	S O R
東北大 (理) M. C. 2	加納 英樹	6/13~6/24	"	"
東北大 (科計研) 教 授	I - 4 池沢 幹彦	7/5~7/6	Pr酸化物の混合原子価 状態	"
東北大 (理) D. C. 3	荒井 史隆	6/27~7/8	"	"
東北大 (理) D. C. 1	長谷部 茂	6/27~7/8	"	"
東北大 (科計研) 技 官	鳶谷 勉	6/27~7/8	"	"
東大 (大・理) 助 教 授	II - 1 藤森 淳	4/18~4/22	ペロブスカイト型Ti, V 酸化物におけるモット 転移の光電子分光	"
東大 (大・理) 助 手	溝川 貴司	4/18~4/22	"	"
東大 (大・理) D. C. 3	森川 啓志	4/18~4/22	"	"
東大 (大・理) D. C. 2	齋藤 智彦	4/18~4/22	"	"
東大 (大・理) D. C. 2	島田 賢也	4/18~4/22	"	"

S O R

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所 員
東 大 (大・理) M. C. 2	藤 岡 健 吾	4/18~4/22	ペロブスカイト型Ti, V 酸化物におけるモット 転移の光電子分光	S O R
東 大 (大・理) M. C. 2	小 西 健 久	4/18~4/22	"	"
東 北 大 (電通研) 教 授	II - 3 宮 本 信 雄	5/23~5/25	水素化シリコン表面の 酸化過程の研究	"
東 北 大 (電通研) 助 教 授	庭 野 道 夫	5/23~5/25	"	"
東 北 大 (電通研) 助 手	遠 田 義 晴	5/23~5/27	"	"
東 北 大 (電通研) 助 手	下 敷 領 文 一	5/16~5/21	"	"
東 北 大 (工) M. C. 2	澤 幡 純 一	5/16~5/27	"	"
分 子 研 教 授	II - 4 川 副 博 司	6/13~6/17	電導性ns°スピネル型 酸化物の電子構造の解 明	"
東 工 大 (工材研) 助 教 授	細 野 秀 雄	6/13~6/17	"	"
分 子 研 助 手	植 田 尚 之	6/13~6/17	"	"
東 工 大 (総合理工) D. C. 3	安 川 雅 啓	6/13~6/17	"	"

S O R

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所 員
東工大 (総合理工) D. C. 2	溝 口 拓	6/13~6/17	電導性ns°スピネル型 酸化物の電子構造の解 明	S O R
東工大 (総合理工) D. C. 2	山 下 裕 久	6/13~6/17	"	"
東工大 (総合理工) D. C. 2	石 黒 誠	6/13~6/17	"	"
岡山大 (理) 教 授	II-5 岩 見 基 弘	6/26~7/9	光電子分光法による遷 移金属/Si(基板)界面 形成初期過程	"
岡山大 (理) 助 教 授	日 下 征 彦	6/26~7/10	"	"
岡山大 (理) 助 手	平 井 正 明	6/26~7/9	"	"
岡山大 (理) M. C. 2	直 本 保	6/26~7/9	"	"
岡山大 (理) M. C. 1	吉 本 慶	6/26~7/9	"	"
岡山大 (理) M. C. 1	木 坂 方 直	6/26~7/9	"	"
東北大 (電通研) 助 教 授	III-1 庭 野 道 夫	6/27~7/1	半導体表面上の放射光 励起反応過程の研究	"
東北大 (電通研) 教 授	宮 本 信 雄	5/23~5/25	"	"

S O R

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所 員
東北大 (電通研) 助 手	下敷領 文 一	6/27~7/2	半導体表面上の放射光 励起反応過程の研究	SOR
東北大 (工) M. C. 2	澤 幡 純 一	6/27~7/8	"	"
国際基督教大 (教養) 講 師	V-1 高 倉 かほる	5/23~5/27 6/6~6/24	真空紫外線(>50nm) による生物影響の分子 的機構	"
国際基督教大 (教養) 教 授	石 川 光 男	5/23~5/27 6/6~6/24	"	"
立教大 (理) 教 授	檜 枝 光太郎	5/23~6/18	"	"
立教大 (理) M. C. 2	鈴 木 慶 二	5/23~6/18	"	"
大阪府立大 (研究所) 講 師	惠 恒 雄	5/24~5/27	"	"
大阪府立大 (研究所) 助 教 授	藤 田 慎 一	5/24~5/27	"	"
高工研 助 教 授	小 林 克 己	5/25~5/26	"	"
基生研 助 教 授	渡 辺 正 勝	5/24~5/26	"	"
奈良県立医大 助 教 授	岡 市 協 生	5/24~5/26	"	"

S O R

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
奈良県立医大 助 手	井 原 誠	5/24~5/26	真空紫外線(>50nm) による生物影響の分子 的機構	S O R
神奈川大 講 師	峯 岸 安津子	5/23~5/27 6/6~6/24	"	"

中性子

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所 員
九大 (教養) 教 授	武田 信一	4/1~9/30 上記期間中 (6泊 7日・2回)	液体金属における電子 -イオン相関	中性子
九大 (教養) 助 手	乾 雅 祝	4/1~9/30 上記期間中 (6泊 7日・2回)	"	"
新潟大 (理) 教 授	田巻 繁	4/1~9/30 上記期間中 (6泊 7日・2回)	"	"
新潟大 (自然科学) 助 手	丸山 健二	4/1~9/30 上記期間中 (6泊 7日・2回)	"	"
東北大 (素材研) 教 授	早稲田 嘉夫	4/1~9/30 上記期間中 (6泊 7日・2回)	"	"
食品総合研 室 長	佐野 洋	4/1~9/30 上記期間中 (5泊 6日・1回)	ムコ多糖蛋白質 複合体の内部構造	"
原研 (先端研) 室 長	新村 信雄	4/1~9/30 上記期間中	"	"
東北大 (理) D. C. 2	田中 伊知郎	4/1~9/30 上記期間中	"	"
お茶の水女子大 (理) 教 授	伊藤 厚子	4/1~9/30 上記期間中 (2泊 3日・1回)	ボンドランダムフラス トレーション系 $Fe(Br_xI_{1-x})_2$ の磁気構造	"
お茶の水女子大 (人間文化) D. C. 3	邸 乃力	4/1~9/30 上記期間中 (2泊 3日・1回)	"	"
東大 (理) D. C. 3	川野 はづき	4/1~9/30 上記期間中 (2泊 3日・1回)	"	"

中性子

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
お茶の水女子大 (理) 教 授	伊 藤 厚 子	4/1~9/30 上記期間中 (4泊 5日・1回)	希釈反強磁性体 $Mn_xMg_{1-x}TiO_3$ の磁気的 振舞い	中性子
お茶の水女子大 (人間文化) D. C. 1	東 方 綾	4/1~9/30 上記期間中 (4泊 5日・1回)	"	"
お茶の水女子大 (人間文化) D. C. 1	深 谷 敦 子	4/1~9/30 上記期間中 (4泊 5日・1回)	"	"
東 大 (理) D. C. 3	川 野 はづき	4/1~9/30 上記期間中 (4泊 5日・1回)	"	"
山 形 大 (理) 助 手	臼 杵 毅	4/1~9/30 上記期間中 (5泊 6日・2回)	溶融 ($In_{1/2} Pb_{1/2}$)X (X: Se, Te)系の局所構 造	"
山 形 大 (理) 教 授	植 村 治	4/1~9/30 上記期間中 (5泊 6日・2回)	"	"
山 形 大 (理) 助 教 授	亀 田 恭 男	4/1~9/30 上記期間中 (5泊 6日・2回)	"	"
山 形 大 (理) 大学院学生	江 端 英 和	4/1~9/30 上記期間中	"	"
山 形 大 (理) 大学院学生	伊 藤 恵 司	4/1~9/30 上記期間中	"	"
東京理科大 (理) 助 教 授	満 田 節 生	4/1~9/30 上記期間中 (3泊 4日・1回)	超伝導体 $Cu_{1+x} Co_{2-x}$ S_4 の反強磁性秩序	"
東京理科大 (理) 大学院学生	松 本 好 康	4/1~9/30 上記期間中	"	"

中性子

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
東京理科大 (理) 大学院学生	小林 悟	4/1~9/30 上記期間中	超伝導体 $Cu_{1+x} Co_{2-x}$ S_4 の反強磁性秩序	中性子
東京理科大 (理) 助 教 授	満田 節生	4/1~9/30 上記期間中 (4泊 5日・1回)	$CoNb_2O_6$ における磁気 秩序	"
東京理科大 (理) 大学院学生	松本 好康	4/1~9/30 上記期間中	"	"
東京理科大 (理) 大学院学生	小林 悟	4/1~9/30 上記期間中	"	"
東京理科大 (理) 助 教 授	満田 節生	4/1~9/30 上記期間中 (3泊 4日・1回)	三角格子反強磁性体 $CuFe_{1-x} Al_x O_2$ の希釈 効果	"
東京理科大 (理) 大学院学生	松本 好康	4/1~9/30 上記期間中	"	"
東京理科大 (理) 大学院学生	小林 悟	4/1~9/30 上記期間中	"	"
早稲田大 (理工) 助 教 授	宗田 孝之	4/1~9/30 上記期間中 (6泊 7日・1回)	"	"
早稲田大 (理工) 客員教授	山田 安定	4/1~9/30 上記期間中	"	"
早稲田大 (理工) 教 授	上江州 由晃	4/1~9/30 上記期間中 (6泊 7日・1回)	"	"
千葉大 (理) 助 教 授	野田 幸男	4/1~9/30 上記期間中	"	"

中性子

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所 員
早稲田大 (理 工) 大学院学生	小豆畠 敬	4/1~9/30 上記期間中 (6泊7日・1回)	水素結合系のソフトモード	中性子
早稲田大 (理 工) 大学院学生	渡 辺 優	4/1~9/30 上記期間中 (6泊7日・1回)	"	"
早稲田大 (理 工) 客員教授	山 田 安 定	4/1~9/30 上記期間中	"	"
千葉大 (理) 助 教 授	野 田 幸 男	4/1~9/30 上記期間中 (6泊7日・1回)	"	"
高工研 助 教 授	池 田 進	4/1~9/30 上記期間中 (6泊7日・1回)	"	"
早稲田大 (理 工) 教 授	上江州 由 晃	4/1~9/30 上記期間中 (6泊7日・1回)	"	"
新潟大 (理) 教 授	田 卷 繁	4/1~9/30 上記期間中	低次元金属液体の中性子回折	"
新潟大 (自然科学) 助 手	丸 山 健 二	4/1~9/30 上記期間中 (5泊6日・2回)	"	"
新潟大 (自然科学) 特別研究員	白 川 善 幸	4/1~9/30 上記期間中 (5泊6日・2回)	"	"
新潟大 (理) 教 授	三 沢 正 勝	4/1~9/30 上記期間中 (5泊6日・1回)	"	"
九大 (教 養) 教 授	武 田 信 一	4/1~9/30 上記期間中 (5泊6日・1回)	"	"

中性子

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所 員
九大 (教養) 助手	乾 雅 祝	4/1~9/30 上記期間中 (5泊6日・2回)	低次元金属液体の中性子回折	中性子
大阪工技研 主任研究官	梅 咲 則 正	4/1~9/30 上記期間中 (3泊4日・1回)	超イオン伝導ガラス中の凍結 α -AgIクラスターの研究	"
大阪工技研 客員研究員	Carol Guy	4/1~9/30 上記期間中	"	"
大阪工技研 研究室長	上 條 長 生	4/1~9/30 上記期間中 (2泊3日・1回)	"	"
大阪府大 (工) 講 師	辰巳砂 昌 弘	4/1~9/30 上記期間中	"	"
大阪府大 (工) 教 授	南 努	4/1~9/30 上記期間中	"	"
東北大 (金研) 教 授	山 口 泰 男	4/1~9/30 上記期間中	"	"

平成6年度 中性子回折装置共同利用採択課題一覧

装置名：汎用三軸型中性子分光器（4G TAS） 35件

所 属	氏 名	研 究 課 題 名
広大・総合科学部	藤井博信	Ce(Ni _{1-x} T _x)Sn 単結晶(T=Co, Pt)の中性子散乱
山口大・理	増山博行	A ₂ BX ₄ 型強誘電体の多形転移と格子振動
九大・教養	武田信一	液体金属における電子ーイオン相関
新潟大・理	三沢正勝	分子液体混合系における異種分子間配向相関
都立大・理	汐崎郁代	ビスマス系酸化物の電気伝導機構
京大・化学研	金谷利治	アモルファス高分子の低エネルギー励起
お茶大・理	外館良衛	規則型複合ペロブスカイト酸化物の構造と磁性
お茶大・理	伊藤厚子	希釈反強磁性体Mn _x Mg _{1-x} TiO ₃ の磁気的振舞い
お茶大・理	伊藤厚子	ボンドランダムフラストレーション系Fe(B _{rx} I _{1-x}) ₂ の磁気構造
東大・物性研	門脇広明	準二次元三角格子反強磁性体の研究
山形大・理	臼杵毅	溶融(In _{1/2} Pb _{1/2}) - X (X:Se, Te)系の局所構造
筑波大・物理工学系	大嶋建一	Rb ₂ ZnBr ₄ の構造相転移とソフトフォノン
福岡教育大・教育	橋本侑三	CeCu ₂ 型磁性体の磁気相転移
福井大・工	目片守	フラストレートしたスピニ系の秩序化とダイナミックス
東京理科大・理	満田節生	超伝導体Cu _{1+x} Co _{2-x} S ₄ の反強磁性秩序
東京理科大・理	満田節生	三角格子反強磁性体CuFe _{1-x} Al _x O ₂ の希釈効果
東北大・理	高木滋	近藤効果と磁気相互作用の競合系の中性子散乱
埼玉大・理	元屋清一郎	高濃度金属スピングラスのスピンドイナミックス
東北大・工	梶谷剛	低エネルギー非弾性および準弾性散乱強度の測定法
東大・物性研	大原泰明	二次元磁性体(CeS) _x Ts ₂ の中性子散乱
東北大・金材研	加藤宏朗	ランダム希釈反強磁性体Fe _{1-x} Mg _x TiO ₃ の磁気構造と磁気励起
早稲田大・理工	宗田孝之	水素結合系のソフトモード
早稲田大・理工	山田安定	水素結合系のプロトンダイナミックス
千葉大・理	野田幸男	マルチリックスにしたK ₃ (D, H)(SO ₄) ₂ におけるH原子の非干渉性散乱
千葉大・大学院自然科	黒岩芳弘	層状物質Fe _x TiS ₂ のクラスター-グラス相のスピニ構造
茨城大・理	佐久間隆	超イオン導電体の中性子回折

所 属	氏 名	研 究 課 題 名
東 北 大 • 理	神 木 正 史	Yb ₄ As ₃ のスピンダイナミクス
新 潟 大 • 理	田 卷 繁	低次元金属液体の中性子回折
阪 大 • 理	河 原 崎 修 三	1 - 2 - 2 型希土類金属間化合物の磁性
高 工 ネ 研	池 田 宏 信	2 次元ハイゼンベルグフラクトン
東 大 • 物 性 研	藤 井 保 彦	炭素フーラレンC ₇₀ の格子振動
東 大 • 物 性 研	加 倉 井 和 久	低次元スピン系における量子効果の研究
東 大 • 物 性 研	吉 沢 英 樹	ペロブスカイト型酸化物の磁性と金属・絶縁体転移
東 大 • 物 性 研	吉 沢 英 樹	汎用三軸型中性子分光器による中性子散乱
山口大・機器分析センター	繁 岡 透	TbRu ₂ Ge ₂ の多段階メタ磁性

装置名：高性能偏極中性子散乱装置（5G PONTA） 31 件

所 属	氏 名	研 究 課 題 名
信 大 • 理	永 井 寛 之	RMn ₁₂ の中性子回折による研究 (R = 希土類元素)
名 大 • 理	佐 藤 正 俊	フォノン寿命測定による高温超伝導対称性研究
名 大 • 理	佐 藤 正 俊	La _{2-x} Sr _x CuO ₄ のフォノンと異常金属相形成との関連
九 大 • 理	日 高 昌 則	二次元反強磁体 (KTiF ₄ , KV ₄) の中性子散乱
名 大 • 理	田 中 秀 数	三角格子化合物の磁気相転移と構造相転移
阪 大 • 理	角 田 賴 彦	Cr合金の磁気励起
阪 大 • 理	角 田 賴 彦	γ-Mn 磁気モーメントの継波ゆらぎ
東 大 • 物 性 研	澤 博	1次元有機p π bandと相互作用するCu d軌道の磁性と格子振動の研究
京 大 • 工	志 賀 正 幸	フラストレート磁性体 YMn ₂ のスピンダイナミクス
筑波大・物理工学系	大 嶋 建 一	マルテンサイト変態を示す物質のミクロ構造の解明
青 学 大 • 理 工	秋 光 純	YTiO ₃ の偏極中性子回折および非弾性散乱
福 井 大 • 工	高 島 正 之	希土類及び遷移金属を含む多元系電導性酸化フッ化物アニオン配座
東 大 • 物 性 研	大 原 泰 明	電荷移動型金属NiSのスピンゆらぎ
東 北 大 • 理	神 木 正 史	Yb ₄ As ₃ のチャージオーダー
東 北 大 • 理	神 木 正 史	CePの磁気ポーラロン状態の偏極中性子による研究
東 大 • 物 性 研	毛 利 信 男	Ceモノブナイトの超高圧下の磁気構造および磁気励起

所 属	氏 名	研 究 課 題 名
阪 大 • 理	河原崎 修 三	周期的非線形格子振動の中性子散乱による研究
阪 大 • 理	河原崎 修 三	1-2-2型希土類金属間化合物の磁性
阪 大 • 基 础 工	大 嶋 隆一郎	F e ₃ P t 合金のマルテンサイト変態前駆現象
東 大 • 物 性 研	加倉井 和 久	低次元スピニ系における量子効果の研究
東 大 • 物 性 研	加倉井 和 久	P O N T A における偏極中性子散乱モードの開発
東 大 • 物 性 研	加倉井 和 久	Y B a ₂ C u ₃ O _{6.9} の偏極中性子非弾性散乱実験
東 大 • 物 性 研	加倉井 和 久	熱中性子三軸スピニエコー実験方法の開発
東 大 • 物 性 研	吉 沢 英 樹	有機物強磁性体 β -N P N N の偏極解析
東 大 • 物 性 研	西 正 和	C u G e O ₃ の中性子散乱非弾性散乱
東 大 • 物 性 研	西 正 和	T T F-C A における中性-イオン性転移
東 大 • 物 性 研	西 正 和	Y I N i S n 単結晶の偏極中性子散乱
東 大 • 物 性 研	西 正 和	高圧セルを用いたC u G e O ₃ の磁性研究
東 大 • 物 性 研	西 正 和	置換型 C u G e _{1-x} M _x O ₃ の研究
東 大 • 物 性 研	加倉井 和 久	擬一次元反強磁性体の磁気励起
山口大・機器分析センタ	繁 岡 透	T b R u ₂ G e ₂ の多段階メタ磁性

装置名：東北大學 3軸型中性子分光器（6 G TOPAN） 18 件

所 属	氏 名	研 究 課 題 名
愛媛大・工	富吉 昇一	有機磁性体の中性子回折
東北大・金材研	大山 研司	中性子散乱による反強磁性体 Mn _{3-x} (Cr, Fe) _x Si のスピン相関の研究
青学大・理工	秋光 純	M ₂ C u ₃ O ₄ C l ₂ (M=S r, B a) の中性子回折
東北大・工	梶谷 剛	電荷揺動型有機物結晶の中性子散乱による研究
東北大・理	武田 全康	偏極中性子による C r の磁気励起の研究
東北大・理	武田 全康	金属人工格子における界面の乱れと巨大磁気抵抗効果との相関の研究
東北大・理	山田 和芳	偏極中性子非弾性散乱による (C a, S r) ₂ C u O ₃ の磁性の探索
東北大・理	山田 和芳	2次元反強磁性絶縁体にドープされた局在キャリヤーの振舞い
東北大・理	山田 和芳	低次元磁性酸化物における格子振動とスピン揺動の共鳴状態の探索
東北大・理	遠藤 康夫	TOPANによる中性子散乱

所 属	氏 名	研 究 課 題 名
東北大・理	遠藤康夫	超伝導を示さない $\text{PrBa}_2\text{Cu}_3\text{O}_7$ の磁性
東北大・理	神木正史	Yb_4As_3 のスピンドイナミクス
東北大・理	神木正史	UX_2 ($X=\text{Ga}, \text{Ge}$) の磁気励起
東大・物性研	毛利信男	Ceモノブニタイトの超高压下の磁気構造および磁気励起
東北大・金材研	山口泰男	Cr_2As および CrMnAs における異方的磁気交換相互作用
東北大・金材研	柴田薰	二次元準結晶の格子振動
神戸大・理	新井正敏	スピンドイエルス物質 CuGeO_3 のフォノン及び構造異常の測定
神戸大・理	新井正敏	酸化物超伝導体の低エネルギーフォノン及び局所構造変化の測定

装置名：高エネルギー分解能3軸型中性子分光器（C1-1 HER） 23件

所 属	氏 名	研 究 課 題 名
広大・総合科学部	藤井博信	Ce(Ni_{1-x}Tx)Sn 単結晶($T=\text{Co}, \text{Pt}$)の中性子散乱
九大・理	日高昌則	熱蛍光体検出器による構造相転移の研究
京大・化学研	金谷利治	アモルファス高分子の低エネルギー励起
東大・物性研	澤博	1次元有機 $p\pi$ bandと相互作用するCu d軌道の磁性と格子振動の研究
東大・物性研	門脇広明	サイン波変調スピンド構造における磁気励起
筑波大・物理工学系	大嶋建一	Rb_2ZnBr_4 の構造相転移とソフトフォノン
東北大・金材研	大山研司	中性子散乱による YbX ($X=\text{N}, \text{P}, \text{As}$)のスピンドイナミクスの研究
東北大・理	高木滋	近藤効果と磁気相互作用の競合系の中性子散乱
埼玉大・理	元屋清一郎	高濃度金属スピングラスの低エネルギー磁気励起
東大・物性研	大原泰明	二次元磁性体 $(\text{CeS})_x\text{TS}_z$ の中性子散乱
東北大・金材研	加藤宏朗	ランダム希釈反強磁性体 $\text{Fe}_{1-x}\text{Mg}_x\text{TiO}_3$ の磁気構造と磁気励起
東北大・理	山田和芳	低次元磁性酸化物における格子振動とスピンド運動の共鳴状態の探索
東北大・理	神木正史	Yb_4As_3 のスピンドイナミクス
東北大・金材研	柴田薰	二次元準結晶の格子振動
神戸大・理	新井正敏	スピンドイエルス物質 CuGeO_3 のフォノン及び構造異常の測定
阪大・理	河原崎修三	基底一重項磁性体の相転移の動力学
阪大・理	河原崎修三	高エネルギー分解能3軸型分光器（HER）による中性子散乱

所 属	氏 名	研 究 課 題 名
神 戸 大 ・ 理	新 井 正 敏	酸化物超伝導体の低エネルギーフォノン及び局所構造変化の測定
高 工 ネ 研	池 田 宏 信	フラクタル格子上の異常スピントラベル
高 工 ネ 研	池 田 宏 信	スピントラベル
東 大 ・ 物 性 研	西 正 和	CuGeO ₃ の中性子非弾性散乱
東 大 ・ 物 性 研	西 正 和	TTF-CAにおける中性子-イオン性転移
東 大 ・ 物 性 研	西 正 和	置換型 CuGe _{1-x} M _x O ₃ の研究

装置名：二次元位置測定小角散乱装置（C1-2 SANS-U） 40 件

所 属	氏 名	研 究 課 題 名
九 大 ・ 工	梶 山 千 里	中性子小角散乱法による高分子超薄膜中の分子鎖凝集状態解析
京都工織大・織維	柴 山 充 弘	末端架橋型モデル高分子網目から成るゲルの構造解析
阪 大 ・ 理	田 代 孝 二	ポリエチレンブレンド試料における分子鎖の空間配置に関する研究
三 重 大 ・ 工	川 口 正 美	高分子無機粒子分散系の構造解析
九 大 ・ 教 養	武 田 信 一	液体カルコゲンの中性子小角散乱
阪 大 ・ 理	小 林 雅 通	時間分解中性子小角散乱法によるシソオカチックリスチンのゲル化過程のダイナミクス研究
食 品 総 合 研	佐 野 洋	ムコ多糖蛋白質合体の内部構造
自 治 医 科 大 ・ 医	原 田 三 男	中性子小角散乱によるガラス中に固定された蛋白の構造と機能の研究
自 治 医 科 大 ・ 医	原 田 三 男	中性子小角散乱によるシャペロニンGro-ELの構造と機能研究
京 大 ・ 化 学 研	西 田 幸 次	高分子電解質溶液の構造
京 大 ・ 化 学 研	金 谷 利 治	水溶性高分子ゲルの長距離構造
京 大 ・ 工	長 村 光 造	第2種超伝導体中の磁束線格子の異方性と不規則化過程に関する研究
京 大 ・ 工	山 岡 仁 史	両親媒性ポリマーの溶液中における挙動
京 大 ・ 工	橋 本 竹 治	高分子混合系の相移転における秩序化過程の研究
京 大 ・ 工	長 谷 川 博 一	L C S T型ブロック共重合体の秩序・無秩序転移
北 大 ・ 低 温 科 学 研	片 桐 千 仞	中性子小角散乱による昆虫リポホリンの構造解析
筑 波 大 ・ 物 理 工 学 系	大 嶋 建 一	マルテンサイト変態を示す物質のミクロ構造の解明
京 都 工 織 大 ・ 織 維	クイー トラン・コン	光誘起体積相移転に伴った二成分系ポリマーブレンドの相溶性
阪 大 ・ 蛋 白 質 研	佐 藤 衛	中性子散乱法による酵母産生B型肝炎ワクチン粒子の構造研究

所 属	氏 名	研 究 課 題 名
広 大 ・ 総 合 科	瀬 戸 秀 紀	マイクロエマルジョンの相分離
東 大 ・ 物 性 研	今 井 正 幸	P E Tの結晶化過程における密度のゆらぎと分子鎖形態
東 大 ・ 物 性 研	今 井 正 幸	非晶性および結晶性高分子における長距離秩序構造
京 大 ・ 理	戸 田 昭 彦	非晶高分子における塑性変形機構
京 大 ・ 理	伊 藤 忠 直	中性子小角散乱法によるゲルゾリーン P I P 2 複合体の構造研究
東 北 大 ・ 金 材 研	神 山 智 明	S i - T i - C - O 非晶質繊維中距離構造の中性子小角散乱による研究
名 古 屋 大 ・ 工	松 下 裕 秀	ミクロ相分離構造中の高分子鎖の分子形態
名 古 屋 大 ・ 工	野 田 一 郎	高分子鎖のすり流動による形態変化
名 古 屋 大 ・ 工	野 田 一 郎	高分子電解質溶液の相関長と分子形態
新 潟 大 ・ 理	田 卷 繁	液体金属間化合物における短中距離規則性
名 古 屋 大 ・ 工	八 田 一 郎	リン脂質・コレステロール系のリップル構造
大阪工業技術研究所	梅 咲 則 正	超イオン伝導ガラス中での凍結 α -A g I クラスターの研究
東 北 大 ・ 金 材 研	柴 田 薫	中性子小角散乱による有機ケイ素シリカ溶液の長距離構造に関する研究
東 北 大 ・ 金 材 研	柴 田 薫	中性子小角散乱による異常リン酸ガラスの中距離構造に関する研究
日本原子力研究所	新 村 信 雄	合成 1 2 塩基対 D N A の結晶化初期過程
日本原子力研究所	新 村 信 雄	リゾチーム結晶成長初期過程の研究
日本原子力研究所	新 村 信 雄	D N A 結合タンパク質 H U の D N A 複合体構造
山形大・附高分子材研	和 泉 義 信	中性子散乱による高分子凝縮体の相転移近傍での物性研究
東 大 ・ 物 性 研	伊 藤 雄 而	好熱菌 $\alpha_3 \beta_3$ 複合体の A T P 分解による散逸構造
東 大 ・ 物 性 研	伊 藤 雄 而	二次元位置測定小角散乱装置の調整・開発研究
東 大 ・ 物 性 研	吉 沢 英 樹	2 次元 3 角格子磁性体 L i N i O ₂ の小角散乱

装置名：高分解能後方散乱装置（C 1 - 3 ULS） 7 件

所 属	氏 名	研 究 課 題 名
京 大 ・ 原 子 炉	海老沢 徹	シリコン結晶法による多層膜ミラーの完全性（人工格子として）の評価
東 大 ・ 物 性 研	今 井 正 幸	非晶性および結晶性高分子における長距離秩序構造
茨 城 工 専	大 竹 淑 恵	強誘電体単結晶の完全性の評価
山形大・附高分子材研	和 泉 義 信	中性子散乱による高分子凝縮体の相転移近傍での物性研究

所 属	氏 名	研 究 課 題 名
東大・物性研	高橋 敏男	コヒーレント中性子ビームによる非弾性散乱の研究
東大・物性研	中谷 信一郎	新型中性子干渉計の開発とその応用
東大・物性研	高橋 敏男	高分解能後方散乱装置の開発

装置名：中性子スペクトル変調時間分析装置・中性子スピニエコー分光器・その他

(C 2-2 NSM・NSE, C 3-1-2 MINE) 5件

所 属	氏 名	研 究 課 題 名
京大・原子炉	海老沢 徹	C 3-1-2 ビームポート特性研究(多層膜中性子干渉計 反射率計)
広大・総合科	好村 滋洋	中性子スピニエコー分光器の開発
東大・物性研	伊藤 雄而	好熱菌 α , β 複合体のATP分解による散逸構造
東大・物性研	伊藤 雄而	中性子スペクトル変調時間分析装置の調整・開発研究
阪大・理	河原崎 修三	三号炉中性子散乱実験用アクセサリ装置の開発

装置名：高分解能中性子散乱装置 (T 1-1 HQR) 16 件

所 属	氏 名	研 究 課 題 名
京大・原子炉	川野 真治	希土類三元化合物DyNiSn磁気構造
九大・理	日高 昌則	二次元反強磁体(KTiF ₄ , KV ₄)の中性子散乱
九大・理	日高 昌則	熱蛍光体検出器による構造相転移の研究
阪大・基礎工	小野寺 昭史	高圧下における重水素置換ポリエチレンの研究
阪大・理	角田 賴彦	Cr合金SDW高調波の研究
阪大・理	角田 賴彦	T 1-1 (HQR) 分光器の保守・調整・分光法の開発
千葉大・理	伊藤 正行	強相関電子系酸化物の磁性
大阪府大・総合科	竹内省三	一軸性圧力下におけるMnNiの中性子回折
阪大・理	高橋 泰洋	高分子の結晶構造とダイナミックス
東京理科大・理	満田 節生	CoNb ₂ O ₆ における磁気秩序
埼玉大・理	元屋 清一郎	高濃度金属スピングラスにおけるスピン相関
東大・物性研	大原 泰明	二次元磁性体(CeS) _x TS ₂ の中性子散乱
阪大・理	河原崎 修三	周期的非線形格子振動の中性子散乱による研究

所 属	氏 名	研 究 課 題 名
阪 大 ・ 理	河原崎 修 三	1-2-2型希土類金属間化合物の磁性
東 大 ・ 物 性 研	加倉井 和 久	超低温下における中性子散乱
東 大 ・ 物 性 研	西 正 和	置換型 $CuGe_{1-x}M_xO_3$ の研究

装置名：単結晶中性子回折装置 (T 1-2 K S D) 11 件

所 属	氏 名	研 究 課 題 名
八 戸 工 大 ・ 工	太 田 哲	遍歴反強磁性体Cr ₂ Ni ₃ の磁気構造の研究
鳥 取 大 ・ 教 育	安 藤 由 和	遍歴磁性体NbFe ₂ の磁気構造
富 山 大 ・ 理	石 川 義 和	PrNiAl ₄ の磁気構造の研究
愛 媛 大 ・ 理	丹 下 初 夫	非結晶ホイスラー合金の中性子回折
東 北 大 ・ 金 材 研	大 橋 正 義	KPDによる物質構造および相転移の研究
東 北 学 院 大 ・ 工	鹿 又 武	マンガン系金属間化合物の磁気構造の決定
九 大 ・ 理	副 島 雄 児	ダイヤモンド型構造の低温不安性(シリコン)
東 北 大 ・ 金 材 研	山 口 泰 男	KSDによる磁性体の研究
神 戸 大 ・ 理	新 井 正 敏	スピニパーエルス物質CuGeO ₃ のフォノン及び構造異常の測定
神 戸 大 ・ 理	新 井 正 敏	酸化物超伝導体の低エネルギーフォノン及び局所構造変化の測定
九 州 工 大 ・ 工	北 井 哲 夫	RZn ₂ (R=Ho, Er) の磁気構造

装置名：粉末中性子回折装置 (T 1-3 K P D) 8 件

所 属	氏 名	研 究 課 題 名
阪 大 ・ 理	田 代 孝 二	ポリエチレンブレンド試料における分子鎖の空間配置に関する研究
八 戸 工 大 ・ 工	太 田 哲	遍歴反強磁性体Cr ₂ Ni ₃ の磁気構造の研究
豊橋技術科学大・工	堤 和 男	ミクロ細孔内での水分子・表面相互作用と吸着状態の特性化
富 山 大 ・ 理	石 川 義 和	PrNiAl ₄ の磁気構造の研究
福 井 大 ・ 工	高 島 正 之	希土類及び遷移金属を含む多元系電導性酸化フッ化物アニオン配座
東 北 大 ・ 金 材 研	大 橋 正 義	KPDによる物質構造および相転移の研究
東 北 学 院 大 ・ 工	鹿 又 武	マンガン系金属間化合物の磁気構造の決定
神 戸 大 ・ 理	菅 野 了 次	層状岩塩型リチウム含有酸化物の構造

平成 6 年度後期共同利用の公募について

1. 公募事項 (別紙の要項参照)

- (1) 留学研究員 (平成 6 年 10 月～平成 7 年 3 月実施分)
- (2) 共同利用 (一般・S O R) (平成 6 年 10 月～平成 7 年 3 月実施分)
- (3) 短期研究会 (平成 6 年 10 月～平成 7 年 3 月実施分)

2. 申請資格 : 国、公、私立大学及び国、公立研究機関の教官、研究者並びにこれに準ずる者。

3. 申請方法 : (1) 共同利用については、外来研究員申請書を提出のこと。

ただし、軌道放射物性研究施設の共同利用については、申請方法が異なる
ので 6 ～ 7 ページを参照のうえ、申請のこと。

(2) 短期研究会については、提案代表者より短期研究会申請書を提出のこと。

4. 申請期限 : 平成 6 年 6 月 30 日 (木) 厳守

5. 申込み先 : 〒106 東京都港区六本木 7 丁目 22 番 1 号

東京大学物性研究所 総務課 共同利用掛

電話(03)3478-6811 内線 5031, 5032

6. 審査 : 研究課題の採否、所要経費の査定等は共同利用施設専門委員会において行い、
教授会で決定する。

7. 採否の判定 : 平成 6 年 9 月下旬

8. 研究報告 : 共同利用研究 (共同利用及び留学研究員) については 1 期 (半年) ごとに実
施報告書 (所定の様式による) を提出のこと。また、共同利用研究によって
得た成果の論文の別刷 2 部を総務課共同利用掛あて提出のこと。

9. 宿泊施設 : (1) 東京大学物性研究所共同利用研究員宿泊施設が利用できる。

(2) 軌道放射物性研究施設の共同利用については、東京大学原子核研究所共
同利用研究員宿泊施設が利用できる。

10. 学生教育研究災害傷害保険の加入 : 大学院学生は『学生教育研究災害傷害保険』に加入さ
れるようご配慮願いたい。

外来研究員について

物性研究所においては、共同利用研究業務として、全国物性研究者の研究遂行に資するため、各種研究員制度が設けられています。これら研究員の公募は、半年ごとに行っております。外来研究員制度は個々の申請を検討のうえ実行されておりますが、特別な事情のある場合を除いて、あらかじめ共同利用施設専門委員会の了承を得る建前をとっておりますので、下記ご参照のうえ期日までに応募されるようお願いします。

その他、外来研究員制度の内容あるいは利用する設備等に関してお判りにならないことがあれば、外来研究員等委員会委員長 毛利 信男（内線5371）までご連絡ください。

なお、留学研究員または共同利用に申請される場合は、事前に必ず利用される研究室等の教官と打ち合わせのうえ申請書を提出してください。

申請書用紙が必要な方は総務課共同利用掛（内線5031, 5032）までご請求ください。

記

1. 各種研究員

a. 嘱託研究員

- (1) 所外研究者に本所の研究計画及び共同研究計画の遂行上必要な研究を委嘱することを目的としています。
- (2) 嘱託研究員の委嘱は、本所所員の申請に基づいて、研究計画等を検討のうえ決定します。

b. 留学研究員

- (1) 大学、官庁、その他の公的研究機関に在籍する若い研究者に、留学の便宜を提供することを目的とした制度です。
- (2) 資格としては、助手ないし大学院博士課程程度の研究歴に相当する方を対象としています。
- (3) 研究は所員の指導のもとで行います。大学院学生の場合、原則として指導教官を嘱託研究員に委嘱します。
- (4) 申請は別紙（様式1）の申請書を提出してください。（必要な方は直接総務課共同利用掛までご請求ください。）

c. 共同利用

○ 一般の共同利用

- (1) 所外研究者が研究の必要上、本所の施設を利用したい場合、その便宜を提供できるようにしております。

(2) 共同利用は「共同研究」と「施設利用」の2つの形態に分けられます。共同研究と施設利用では採択率、充足率が異なる場合があります。

また、共同研究、施設利用それぞれに、1年以内に研究を集中して遂行する「短期集中型」の利用形態が設けられています。短期集中型を希望して認められた場合には充足率を高くしますが、その後しばらくの期間、共同利用を見合せていただくことがあります。

(3) 共同利用をご希望の方は、別紙（様式2）の申請書を提出してください。

- 軌道放射物性研究施設の共同利用（6ページ参照）

2. 採否決定

上記各種研究員受入れの可否は、共同利用施設専門委員会において、申請された研究計画、研究歴及び所内諸条件を審査検討し、教授会で決定します。

採択された共同利用研究の中で、放射線施設を利用される方には、「外来研究員等の放射線管理内規」に従って、別紙（様式6）の「放射線業務従事承認書」を提出していただきます。

3. 実施報告書

留学研究員及び共同利用で来所の方には、1期（半年）ごとに終了後30日以内に別紙（共同研究及び短期集中型の施設利用は様式4、一般の施設利用及び留学研究員は様式5）による外来研究員実施報告書を提出していただきます。

4. 別刷の提出

外来研究員として来所されて行われた研究に関する論文の別刷2部を必ず総務課共同利用掛に提出してください。また、論文を発表される場合、謝辞の所に東京大学物性研究所の共同利用による旨の文章を入れていただくことを希望します。英文の場合の参考として、次のような例文をあげておきます。

- a) This work was carried out under the Visiting Researcher's Program of the Institute for Solid State Physics, the University of Tokyo.
- b) This work was carried out by the joint research in the Institute for Solid State Physics, the University of Tokyo.
- c) This work was performed using facilities of the Institute for Solid State Physics, the University of Tokyo.

5. 経 費

旅費、滞在費及び研究に要する経費は、個々の申請に基づいて共同利用施設専門委員会で査定・審査し、教授会の決定に基づき共同利用施設運営費から支出します。

6. そ の 他

- (1) 予算の支出、諸施設の利用、設備の管理等については、関係する所員の指示に従ってください。
- (2) 申請書は、必ず別紙様式のものを使用してください。

○ 軌道放射物性研究施設の共同利用

0.38 GeV電子ストーリジング(SOR-RING)からの放射光を用いる共同利用実験の申込みについてはマシンタイムの調整を行う必要上、物性研共同利用の正式申込みの以前に下記の要領で物性研軌道放射物性研究施設あて申込んでください。

- (1) 対象となる実験：ES及びSOR-RINGからの放射光を利用する実験。
- (2) 実験期間：平成6年10月中旬から平成7年3月中旬までの期間で、利用できるマシンタイムは総計約3か月間。ただし、各ビームラインによって多少異なります。
- (3) 利用できる設備：
- (1) SOR-RING第1ビームライン
1M縦分散瀬谷－波岡型直入射分光器
 - (2) SOR-RING第2ビームライン
2M縦分散変形ローランド型斜入射分光器、光電子分光測定装置一式
 - (3) SOR-RING第3ビームライン
自由ポート
 - (4) SOR-RING第4ビームライン
平面回折格子型斜入射分光器
 - (5) SOR-RING第5ビームライン
 - (6) SOR-RING第1'ビームライン
自由ポート

なお、第3、第4ビームラインでの実験及び準備研究的な実験については、申込み前に当施設に御相談ください。

(4) 申込み要領

- (1) 希望するビームライン
- (2) 申請研究課題
- (3) 申請代表者及び実験参加者、所属・職・氏名
- (4) 実験期間及び実施希望時期
- (5) 実験の目的・意義及び背景（1,000字程度でわかりやすく書いてください。）
- (6) 関連分野における申請者のこれまでの業績（5編以内）
- (7) 実験の方法（800字程度、危険物や超高真空系を汚染する可能性のある物質等を使用する場合は、明示のうえ安全対策の方法を記すこと。）

- (8) 使用装置（持込み機器も含めて）
- (9) 物性研共同利用施設運営費よりの負担を希望する消耗品の種類と費用の概算

上記項目につき記入した申請書のコピー8部（A4サイズ用紙）を下記申込み先あて送付してください。

(5) 申込み先：〒188 東京都田無市緑町3丁目2番1号

東京大学物性研究所軌道放射物性研究施設

電話 (0424) 69-2296 (ダイヤルイン)

(「共同利用申込み」と表記のこと)

(6) 申込み期限：平成6年6月10日（金）必着とします。

(7) 審査：物性研軌道放射物性研究施設運営委員会において審査し、採用された研究課題についてはその実験計画に従い改めて物性研外来研究員申請書及び放射線業務従事承認書を直接総務課共同利用掛（〒106 東京都港区六本木7丁目22番1号 東京大学物性研究所）に提出していただきます。

短期研究会について

短期研究会は、物性研究上興味深い特定のテーマについて全国の研究者が1～3日間程度研究会を開き、集中的に討議するもので、提案代表者は内容、規模等について関係研究者と十分検討のうえ、申請してください。

記

1. 申請方法：代表者は別紙申請書（様式3）を提出してください。
2. 提案理由の説明：提案代表者は、内容、規模等について共同利用施設専門委員会で説明していただきます。
3. 採否決定：共同利用施設専門委員会の審議を経て教授会が決定します。
4. 経費：共同利用施設専門委員会で査定・審査し、教授会の決定に基づき共同利用施設運営費から支出します。
5. 報告書：提案代表者は、研究会終了後すみやかに物性研だよりに掲載する研究会報告書を提出してください。執筆に関する要領は別にお知らせします。

共同利用施設専門委員会委員

安積 徹	東北大(理)	関一彦	名大(理)
川合知二	阪大(産研)	保志賢介	室蘭工大(工)
菅滋正	阪大(基礎工)	佐藤正俊	名大(理)
興地斐男	阪大(工)	高畠敏郎	広島大(総合)
遠藤康夫	東北大(理)	藤田敏三	広島大(理)
倉本義夫	東北大(理)	都福仁	阪大(理)
大貫惇睦	筑波大(物質工)	黒田義浩	名大(理)
斯波弘行	東工大(理)	溝口正	学習院大(理)
天児寧	信州大(理)	高山一	筑波大(物理)
大隅一政	高エネルギー物理学研究所	藤森淳	東大(理)
花崎一郎	分子科学研究所	その他物性研究所員	

外来研究員等の放射線管理内規

(昭和57.7.21制定)

放射線障害予防規程第45条第3項に定める外来研究員等の放射線管理については以下のとおりとする。

1. 六本木地区

- (1) 物性研究所放射線管理室（以下「管理室」という。）は、外来研究員等の共同利用申込が承認された時に、その所属する大学又は事業所に対し「物性研究所の放射線施設を利用する外来研究員等の派遣についての了解事項」及び「放射線業務従事承認書」を送付する。
- (2) 外来研究員等は、放射線取扱いに先立って「放射線業務従事承認書」を管理室に提出するものとする。
- (3) 本所の放射線施設及び放射線発生装置等を初めて利用する外来研究員等に対し、当該施設の放射線管理責任者は、放射線取扱いの開始前に放射線発生装置あるいは放射性物質等の安全取扱い、立入記録の記入等についての教育訓練を実施する。
- (4) 放射線管理責任者は、外来研究員等について、フィルムバッジ等の着用の有無を確認し、それ等を持たない場合は、個人被曝線量計を貸与し被曝線量当量を測定し記録するものとする。

2. 日本原子力研究所内（東海村）－中性子散乱実験装置

中性子散乱実験装置等を利用する外来研究員等は、日本原子力研究所で定める放射線管理上の所要手続きをしなければならない。

3. 東大原子核研究所内（田無市）－軌道放射物性研究施設

軌道放射物性研究施設を利用する外来研究員等の放射線管理については、「軌道放射物性研究施設に係る覚書」によって行う。

4. 高エネルギー物理学研究所内設置の軌道放射物性研究施設分室を利用する外来研究員等は、高エネルギー物理学研究所で定める放射線管理上の所要手続きをしなければならない。

附 則

この内規は、平成元年4月1日から施行する。

物性研究所の放射線施設を利用する外来研究員等 の派遣についての了解事項

1. 外来研究員等及び所属機関の責任者は、物性研究所の放射線施設の利用に際して、以下の事項を承諾するものとする。
 2. 外来研究員等は、本所放射線障害予防規程及び当該放射線施設の管理内規に従う。
 3. 外来研究員等が利用する放射線施設等に係る管理責任（放射線発生装置、放射性物質の安全取扱い、管理区域等の線量当量の測定等の管理）は、物性研究所にあるが、「放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律」等で定める放射線業務従事者としての認可及び個人管理は、外来研究員等の所属機関の責任において行う。
放射線業務従事者としての認可及び個人管理とは、
 - (1) 教育訓練（物性研究所における放射線発生装置等の安全取扱いに係る教育訓練は除く）の受講
 - (2) 血液検査などの健康管理
 - (3) 個人被曝線量当量の測定
 - (4) 放射線業務に従事することの可否の判定
 4. 放射線業務に従事する外来研究員等は、所属機関の放射線取扱主任者及び管理責任者が認め放射線業務従事承認書を、物性研究所放射線管理室に提出する。
 5. 個人被曝線量計（フィルムバッジ等）は、原則として所属機関より持参し、着装して放射線業務に従事するものとする。
但し、個人被曝線量計のない場合は、当該施設又は放射線管理室が貸与する。

様式 1

外来研究員（留学研究員）申請書

No.

平成 年 月 日

東京大学物性研究所長 殿

所属 _____

職名又は学年 _____

ふりがな
氏名 _____

印

級号棒 _____

級 _____

号棒 _____

級号棒発令年月日（ 年 月 日） _____

申請者の連絡先 電話 _____ 内線 _____

FAX _____

下記研究計画により留学研究員として貴所で研究したいので申請します。

研究題目

研究目的

○研究の実施計画使用装置方法等詳細に。

○研究予定期間 平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日

○放射線業務に従事することの有無。 有 無 (○で囲むこと)

希望部門 研究室名 (部門 研究室)

他の研究室、共通実験室への共同利用を同時に申請していますか。 していない している

申請している場合の研究室、共通実験室名 (

※本紙をコピーして使用する場合は、A4版サイズにして下さい。

※ 採択された共同利用研究の中で、放射線施設を利用される方には、「外来研究員等の放射管理内規」にしたがって、「放射線業務従事承認書」（様式 6）を提出していただきます。

① 宿泊を必要としない申請者（日帰り）

月 日～月 日 (週・月)
月 日～月 日 (週・月)
月 日～月 日 (週・月)

② 宿泊を必要とする申請者

月 日～月 日 (泊日) 月 日～月 日 (泊日)
月 日～月 日 (泊日) 月 日～月 日 (泊日)
月 日～月 日 (泊日) 月 日～月 日 (泊日)

物性研宿泊施設

原子核研宿泊施設

その他

③ この共同利用の際、貴所属機関から、鉄道賃、日当、宿泊料が支給されますか。

される

されない

利用頻度： ① 新規 ② 過去 5 年間何回位利用していますか。 (回)

略歴

○大学院学生は学歴を記入のこと。

上記のとおり、申請者が貴研究所において研究に従事することを承諾します。

平成 年 月 日

申請者の所属長職・氏名

様式 2

外来研究員（共同利用）申請書

No.

平成 年 月 日

東京大学物性研究所長 殿

所 属 _____

職名又は学年 _____

ふりがな
氏 名 _____

⑩

級号棒 _____

級 _____

号棒 _____

級号棒発令年月日（ 年 月 日） _____

申請者の連絡先 電話 _____

内線 _____

FAX _____

下記研究計画により外来研究員として貴所で研究したいので申請します。

研究題目（グループで研究する場合は代表者名を記入すること。）

研究目的（グループで研究する場合は代表者のみ記入すること。）

○研究の実施計画使用装置方法等詳細に。（グループで研究する場合は代表者のみ記入すること。）

○短期集中型を希望する場合、期間（原則として1年以内）を明記してください。

平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日

○共同研究・施設利用を希望する。（○で囲むこと）

○放射線業務に従事することの有無。 有・無（○で囲むこと）

希望部門 研究室名（

部門

研究室）

他の研究室、共通実験室への共同利用を同時に申請していますか。

していない

している

申請している場合の研究室、共通実験室名（

※本紙をコピーして使用する場合は、A4版サイズにして下さい。

※ 採択された共同利用研究の中で、放射線施設を利用する方には、「外来研究員等の放射管理内規」にしたがって、「放射線業務従事承認書」（様式6）を提出していただきます。

① 宿泊を必要としない申請者（日帰り）

月 日～月 日 (週・月)
月 日～月 日 (週・月)
月 日～月 日 (週・月)

② 宿泊を必要とする申請者

月 日～月 日 (泊日) 月 日～月 日 (泊日)
月 日～月 日 (泊日) 月 日～月 日 (泊日)
月 日～月 日 (泊日) 月 日～月 日 (泊日)

物性研宿泊施設 原子核研宿泊施設 その他

③ この共同利用の際、貴所属機関から、鉄道賃、日当、宿泊料が支給されますか。

される されない

利用頻度： ① 新規 ② 過去5年間何回位利用していますか。（回）

略歴

○大学院学生は学歴を記入のこと。

上記のとおり、申請者が貴研究所において研究に従事することを承諾します。

平成 年 月 日

申請者の所属長職・氏名

印

様式 3-1

短期研究会申請書

平成 年 月 日

東京大学物性研究所長 殿

提案代表者

所 属

職 名

氏 名

(印)

連絡先 電 話 内線

F A X

下記のとおり短期研究会の開催を提案したいので申請します。

記

1. 研究会の名称

2. 提案理由

理由書は、400字以上600字まで（A4版横書き）とし、提案理由及び研究会内容がよくわかるように記載してください。

特に物性研で開催することの必要性や意義を明記してください。

3. 開催期間

月 日 ～ 月 日 (日間)

開始時間 _____ :

4. 参加予定者数 約 名

5. 希望事項 (○で囲む)

予稿集 : 有 • 無 その他希望事項

公開 • 非公開

6. その他(代表者以外の提案者)

所属機関・職名を記入のこと

※本紙をコピーして使用する場合は、A4版サイズにして下さい。

様式 3-2

7. 旅費の支給を必要とする者

	氏名	所属	職名
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			

※本紙をコピーして使用する場合は、A4版サイズにして下さい。

様式 3 - 3

8. その他主要参加者

	氏名	所属	職名
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			

※本紙をコピーして使用する場合は、A4版サイズにして下さい。

樣式 4

平成 年 月 日

外來研究員共同研究実施報告書 施設利用(短期集中型)

東京大学物性研究所長 殿

所 属

職名

氏名

印

下記のとおり貴研究所の施設を利用しましたので、報告します。

記

氏 名	職 名	所 屬 名	備 考

- ⑤ 研究実施経過（利用機器、利用手段方法、約 1,000字（A4版横書き））

⑥ 成果の公表の方法（投稿予定の論文のタイトル、雑誌名など。短期集中型の場合は終了時のみ）

注 意

- (1) グループ研究の場合、代表者が記入のこと。
(2) 各期終了後30日以内に提出すること。

※本紙をコピーして使用する場合は、A4版サイズにして下さい。

様式 5

平成 年 月 日

外 来 研 究 員 施 設 利 用 員 実 施 報 告 書

東京大学物性研究所長 殿

所 属

職 名

氏 名

(印)

下記のとおり貴研究所の施設を利用しましたので、報告します。

記

① 研究題目

② 利用期間

自 平成 年 月 日
至 平成 年 月 日

③ 利用研究室または

共通実験室名 _____

④ 共同研究者氏名及び所属職名

氏 名	職 名	所 属 名	備 考

⑤ 研究実施経過（利用機器、利用手段方法、成果、約400字（A4版横書き））

注 意

- (1) グループ研究の場合、代表者が記入のこと。
- (2) 各期終了後30日以内に提出すること。

※本紙をコピーして使用する場合は、A4版サイズにして下さい。

様式 6

平成 年 月 日

放射線業務従事承認書

東京大学物性研究所長 殿

機関名

所在地

放射線取扱主任者名

印

所属機関代表者名

印

当機関は、「物性研究所の放射線施設を利用する外来研究員等の派遣についての了解事項」を承諾して、下記の者が貴研究所において放射線業務に従事することを承認しましたのでよろしくお願いします。

なお、下記の者については、当機関において放射線障害防止法、あるいは人事院規則(10-5)等の法規に基づいて放射線業務従事者として管理が行われていることを証明します。

記

氏名	年令	身分	所属学科・部課等	年現在の合計被爆線量当量(mSv)	過去1年間の被爆線量当量(mSv)
放射線業務従事期間			年 月 日から	年 月 日まで	
物性研究所利用施設					

(注) この承認書の有効期間は、年度末までです。

※本紙をコピーして使用する場合は、A4版サイズにして下さい。

物性研究所物性科学入門講座 — 物質の示す多彩な現象 —

日 時 : 平成 6 年 6 月 30 日 (木) 13:00~18:00

講 義 : 上 田 和 夫 強相関電子系の磁性と超伝導
高 木 英 典 高温超伝導酸化物の電子物性
上 田 寛 不安比化合物の構造・物性

場 所 : 東京大学物性研究所 講義室 (Q棟 1階)
地下鉄日比谷線「六本木」または千代田線「乃木坂」から徒歩 5 分

聴 講 料 : 無 料

問い合わせ先: 東京大学物性研究所 総務課 庶務掛
電話(03)3478-6811 内線 5011, 5012

東京大学物性研究所における大学院修士 及び博士課程進学ガイダンスのお知らせ

(物理学・化学・地球物理学・鉱物学・物理工学各専攻)

東京大学物性研究所における、大学院教官の研究室に進学を希望される方のための説明会を下記要領で開催しますので、関心をお持ちの方はお集まりください。

記

日 時： 平成6年7月1日（金） 12:45～

集合場所： 東京都港区六本木7-22-1

東京大学物性研究所 講義室（Q棟1階）

行事予定： 12:45～13:10 概要説明

13:10～13:40 物性研紹介ビデオ映写

13:40～16:30 研究室見学

研究室見学終了後、教官との懇談会を予定しております。

奮ってご参加ください。

物性研究所に関する資料—物性研究所パンフレットを希望される方々には予めお送りしますので、その旨文書にて物性研究所 総務課 庶務掛にお出し下さい。

（ 住所：〒106 東京都港区六本木722-1
電話：(03) 3478-6811 内線5011, 5012 ）

Technical Report of ISSP 新刊リスト

Ser.A.

- No.2786 Towards the Mott Transition in one Dimension. by Michiyasu Mori, Hidetoshi Fukuyama and Masatoshi Imada.
- No.2787 Electron Escape Rate and Barrier Traversal Time Influenced by the Electromagnetic Environment. by Masahito Ueda and Tsuneya Ando.
- No.2788 Phase Diagram of the Ashkin - Teller Quantum Spin Chain. by Masanori Yamanaka, Yasuhiro Hatsugai and Mahito Kohmoto.
- No.2789 Quasi - One - Dimensional Antiferromagnetic Correlation in the Kondo Semiconductor CeNiSn. by H. Kadowaki, T. Sato, H. Yoshizawa, T. Ekino, T. Takabatake, H. Fujii, L.P. Regnault and Y. Isikawa.
- No.2790 High - Field Magnetization of One - Dimensional S=1/2 Trimer System 3CuCl₂. 2dioxane. by Yoshitami Ajiro, Takayuki Asano, Toshiya Inami, Hiroko Aruga - Katori and Tsuneaki Goto.
- No.2791 Magnetic Properties and Crystal Structure of the p - Fluorophenyl Nitronyl Nitroxide Radical Crystal : Ferromagnetic Intermolecular Interactions Leading to a Three - Dimensional Network of Ground Triplet Dimeric Molecules. by Yuko Hosokoshi, Masafumi Tamura, Minoru Kinoshita, Hiroshi Sawa, Reizo Kato, Youko Fujiwara and Yutaka Ueda.
- No.2792 Excitation Spectrum of S=1 Antiferromagnetic Chains. by Minoru Takahashi.
- No.2793 Phase Diagram of a Reentrant Ising Spin Glass Fe_{0.6} Mn_{0.4} TiO₃

on the Magnetic Field - Temperature Plane. by H. Yoshizawa,
H. Mori, H. Kawano, H. Aruga Katori, S. Mitsuda and A. Ito.

No.2794 Polarized Neutron Scattering Study of β -Mn and β -Mn_{0.9}Al_{0.1}.
by Masayuki Shiga, Hiroyuki Nakamura, Masakazu Nishi and
Kazuhisa Kakurai.

No.2795 Experimental Study of the de Almeida - Thouless Line by Using
Typical Ising Spin - Glass Fe_xMn_{1-x}TiO₃ with x=0.41, 0.50, 0.55
and 0.57. by Hiroko Aruga Katori and Atsuko Ito.

No.2796 Nuclear Quadrupole Resonance Study of the High - Tc Related Cu
Oxide La₄BaCu₅O_{13+δ}. by Takashi Ohno, Hiroshi Yasuoka and
Yutaka Ueda.

No.2797 Direct Demagnetization Cooling of High - Density Solid ³He. by
Tohru Okamoto, Hiroshi Fukuyama, Hikota Akimoto, Hidehiko
Ishimoto and Shinji Ogawa.

No.2798 New Nonmagnetic Heavy - Electron Compound, CeFeGe₃. by
H. Yamamoto, H. Sawa and M. Ishikawa.

No.2799 Quantum Heisenberg Mode with Long - Range Ferromagnetic
Interactions. by Hiroki Nakano and Minoru Takahashi.

No.2800 Circular Magnetic X - Ray Dichroism at Fe K-Edges in Rare -
Earth Iron Garnets. by Isao Harada and Akio Kotani.

No.2801 Carrier Concentration Dependences of the Nuclear Spin - Lattice
Relaxation Rate and the Knight Shift in Y_{1-x}Ca_xBa₂Cu₄O₈. by
Takato Machi, Izumi Tomono, Keishi Tai, Naoki Koshizuka and
Hiroshi Yasuoka.

- No.2802 Mott Transiton and Transition to Incompressible States - Variety and Universality - . by Masatoshi Imada.
- No.2803 Luminescence Spectroscopy of Porous Si by Selective Excitation. by Tohru Suemoto, Koichiro Tanaka and Anri Nakajima.
- No.2804 Photoemission from Cr 2p and 3s levels of CrF₂. by Kozo Okada, Akio Kotani, V. Kinsinger, R. Zimmermann and S. Hüfner.
- No.2805 Energy Spectrum and the Critical Wavefunctions of the quasiperiodic Harper Equation – the Silver Mean Case – . by Kazuhiro Ikezawa and Mahito Kohmoto.
- No.2806 Enhancement of Dislocation Mobility in Semiconducting Crystals by Electronic Excitation. by Koji Maeda and Shin Takeuchi.
- No.2807 Magnetic Phase Transitions in Inverse Trirutile - type Compounds by Masaaki Yamaguchi and Masayasu Ishikawa.
- No.2808 Lifetime Effect on the Multiplet Structure of 4d X-Ray Photoemission Spectra in Heavy Rare - Earth Elements. by Haruhiko Ogasawara, Akio Kotani and B.T. Thole.
- No.2809 Split - Off State Formation in the Final State of Photoemission in Ti Compounds. by Kozo Okada, Takayuki Uozumi and Akio Kotani.

'94 第39回物性若手夏の学校

日 時 : 1994年7月30日(土) ~ 8月3日(水)

場 所 : 長野県志賀高原ホテルサニー志賀

(381-04 長野県下高井郡山ノ内町志賀高原高天ヶ原)

電話 0269-34-2604 fax 0269-34-3035

スケジュール 7/30, 31 8/1 8/2, 3

午前 講義 シンポジウム 講義

午後 サブゼミ シンポジウム サブゼミ

講義前半 (7月30日, 31日 午前9時~12時) :

梶 村 皓 二 電総研

「STMの原理と超伝導への応用」

北 野 正 雄 京大工

「光学における幾何学位相と量子相関」

斯 波 弘 行 東工大理

「相関の強い電子系-0, 1, ……, ∞次元-」

武 者 利 光 東京理科大工

「 $1/f$ ゆらぎの物理」

安 岡 弘 志 東大・物性研

「核磁気共鳴の原理と磁性体および超伝導体への応用」

シンポジウム (8月1日)

講演テーマ : 「物理をめぐる冒険」

藏 本 由 紀 京大理

長 岡 洋 介 京大・基研

講義後半 (8月2日, 3日 午前9時~12時) :

池 田 研 介 立命館大理工

「古典論, 量子論におけるカオス」

川 上 則 雄 京大・基研

「1次基量子系の物理」

佐 藤 武 郎 東北大理

「量子核形成－多粒子系準安定状態の崩壊－」

関 本 謙 名大工

「軟らかい固体と硬い流体－ゲルの物理その他－」

丸 山 有 成 分子科学研

「固体フラー・レンの物理と化学」

敬称略

サブゼミ（7月30日，31日，8月2日，3日，午後）：

サブゼミ講師による講義&研究発表会

参 加 費： 6,000 円

宿 泊 費： 7,000 円（一泊3食）

連 絡 先： 606-01 京都市左京区北白川追分町理学部物理第一教室

’94 物性若手夏の学校準備局 紺 谷 浩

電話 075-753-3771 fax 075-753-3819

編 集 後 記

「物性研だより」の第34巻第1号をおとどけします。

竹内所長が再任され、引き続いてむずかしい時期の物性研の舵取りをされることになりました。今号には、柏キャンパス移転と将来計画の実現に向けての抱負が、歴史的経緯をふまえて述べられています。
ぜひご一読をお願いします。また、これに関するご感想、ご意見等を「物性研だより」にお寄せいただければ幸いです。

なお、次号の締切りは6月10日です。

所属、住所変更の場合等は事務部共同利用掛まで連絡願います。

武居文彦
高橋 實

